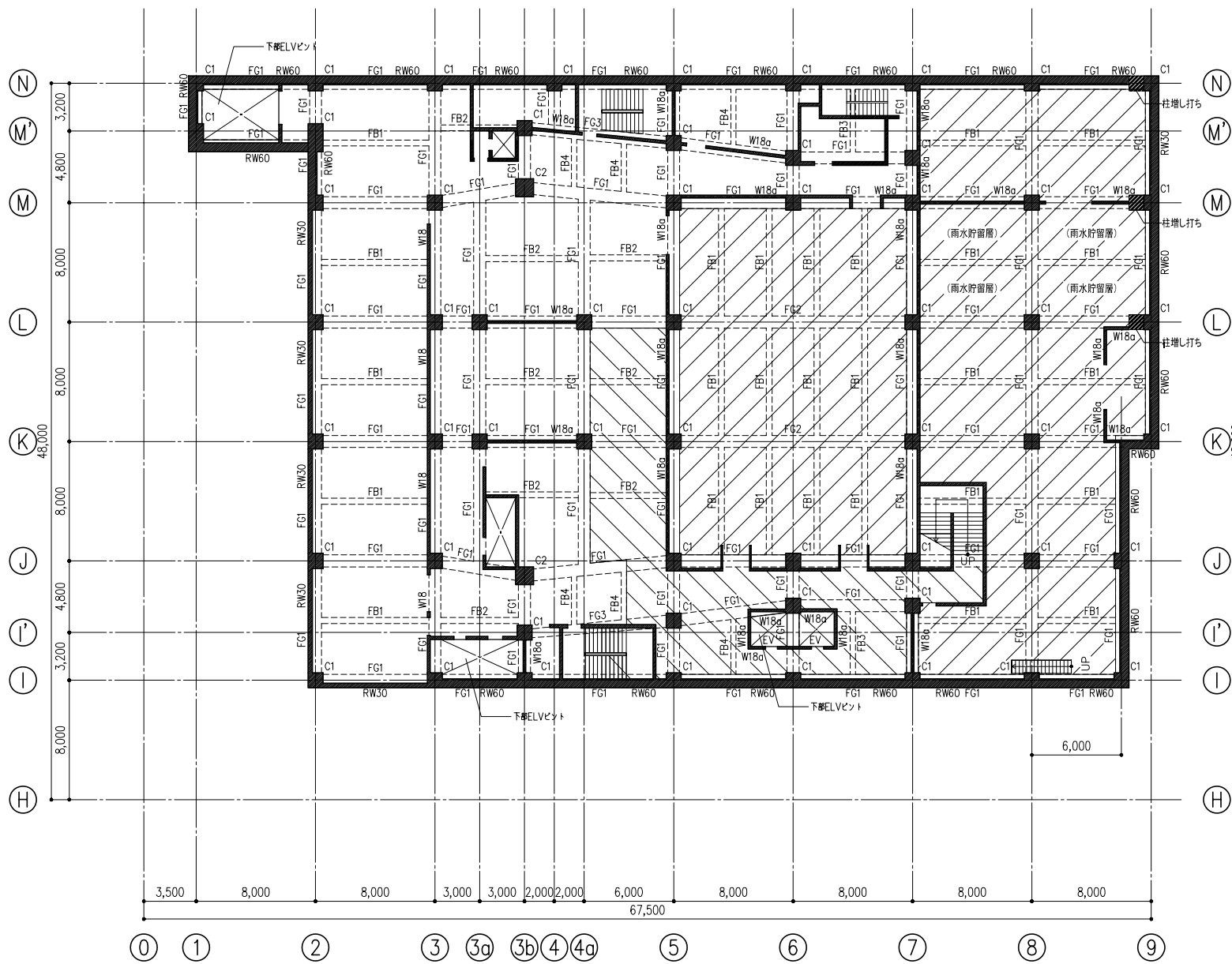


基本設計参考図（構造）



B2階床伏図 S=1: 400

(B2階柱壁・B2階床梁伏図)

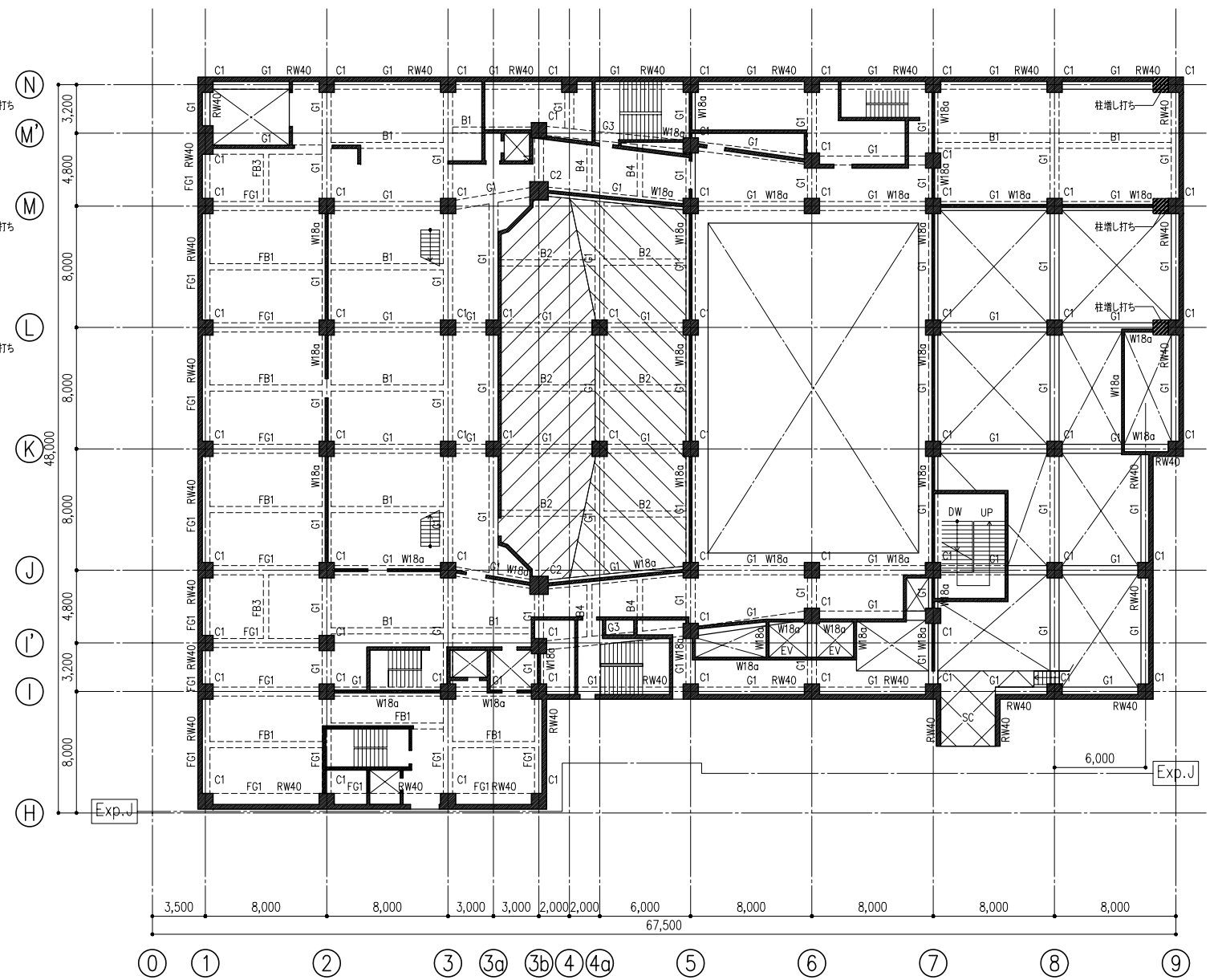
B2階床伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

1. B2FL=1FL-8,575
2. スラブ、梁上端レベル

スラブ上端		梁上端	
	B2FL- 10		B2FL- 10
	B2FL- 300		B2FL- 100
	B2FL- 100		B2FL- 300

3. スラブ符号は、FS1とする。
4. は、増し打ちです。



B1階床伏図 S=1: 400

(B1階柱壁・B1階床梁伏図)

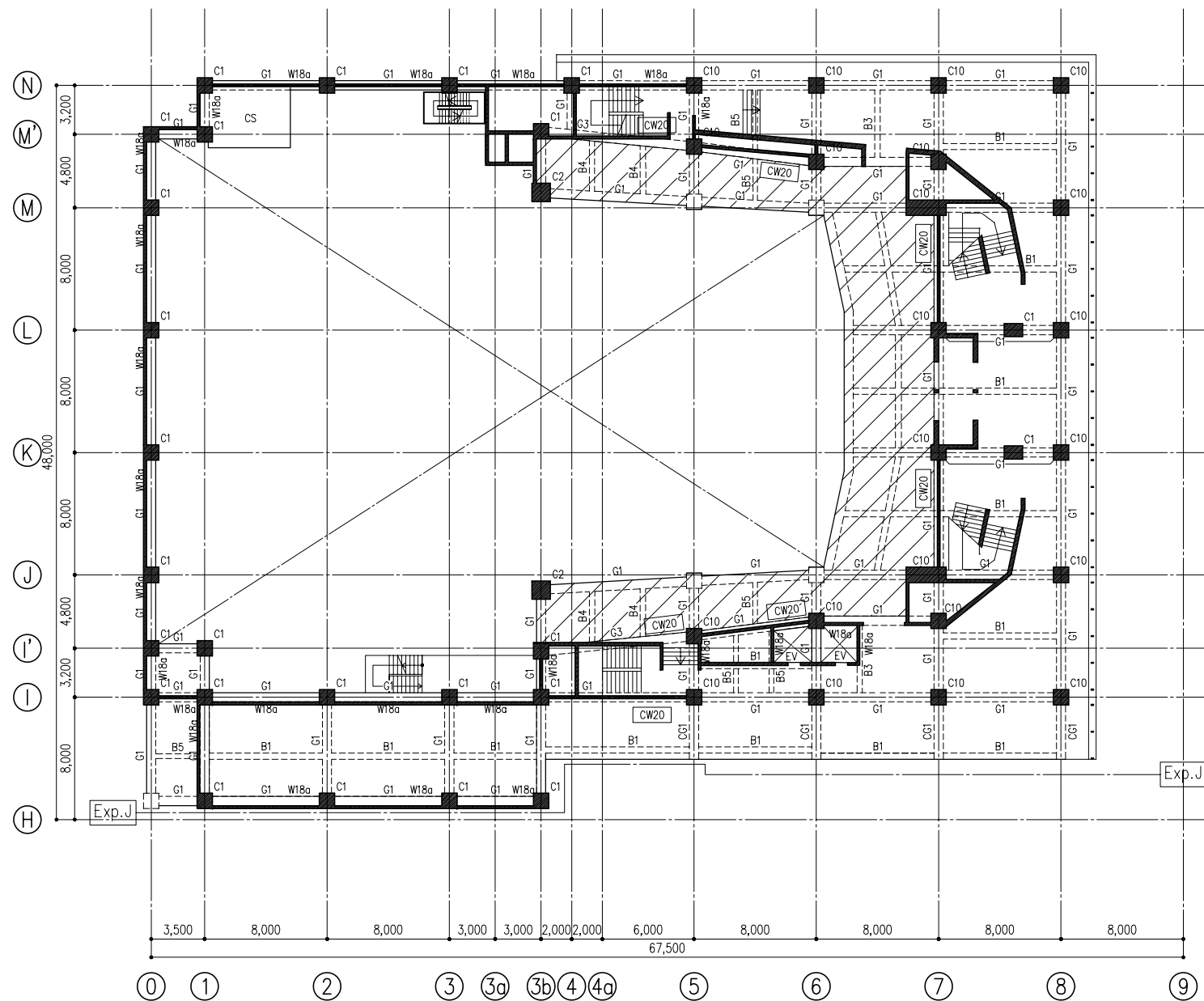
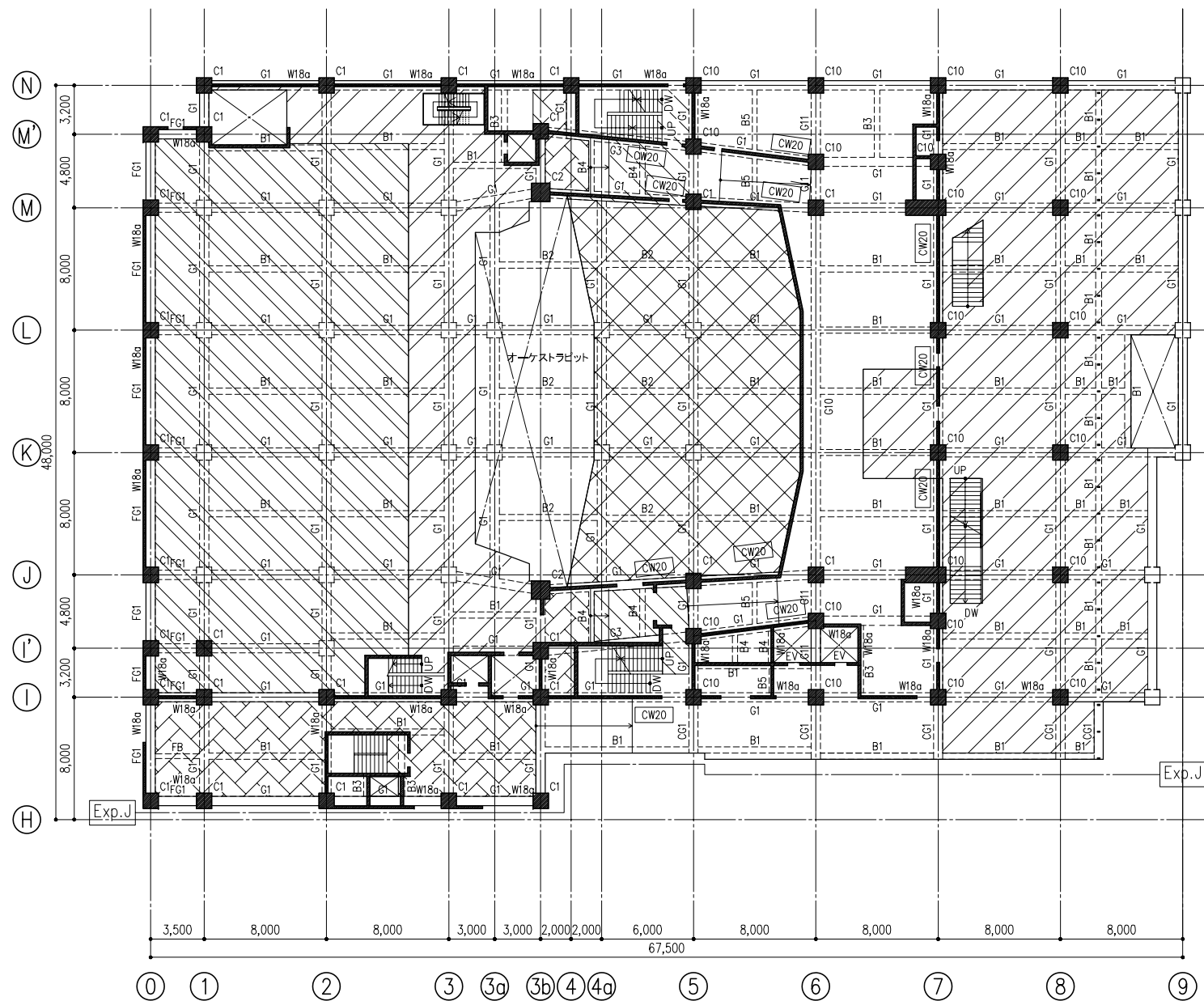
B1階床伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

1. B1FL=1FL-5,075
2. スラブ、梁上端レベル

スラブ上端		梁上端	
	B1FL+1,000		B1FL+1,000
	B1FL- 10		B1FL- 10
	B1FL- 500		B1FL- 500
	B1FL- 800		B1FL- 800

3. スラブ符号は、S1とする。
4. は、増し打ちです。



1階床伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

- 1FL=1FL±0
- スラブ、梁上端レベル

スラブ上端	梁上端
1FL- 10	1FL- 10
1FL- 100	1FL- 100
1FL- 485	1FL- 485
1FL- 585	1FL- 585
1FL- 1,425	1FL- 1,425
1FL- 1,575	1FL- 1,575
1FL- 2,875	1FL- 2,875

- スラブ符号は、S1とする。
- CW20は、鋼板コンクリート耐震壁を示す。

1階床伏図 S=1:400

(1階柱壁・1階床梁伏図)

2階床伏図 S=1:400

(2階柱壁・2階床梁伏図)

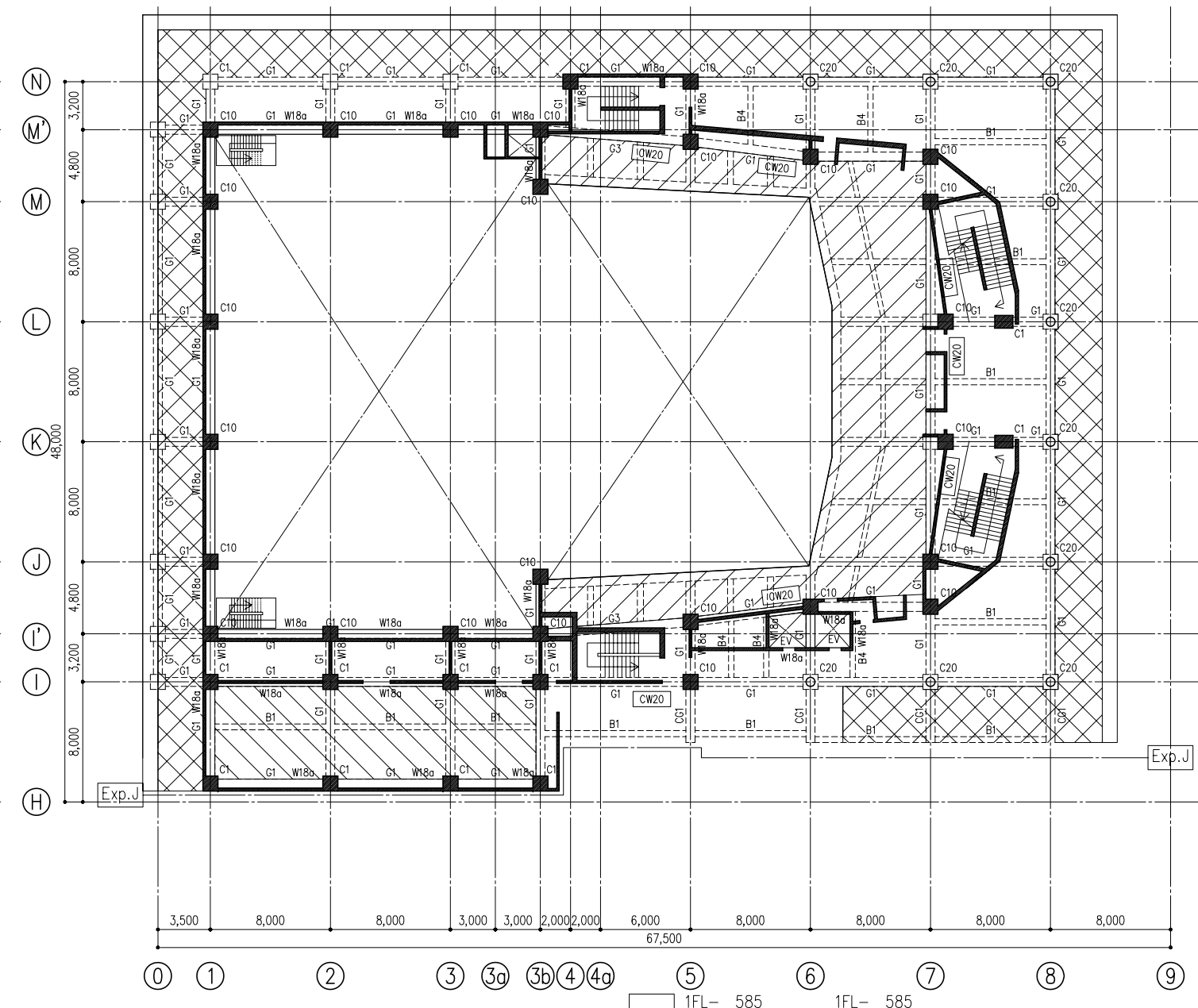
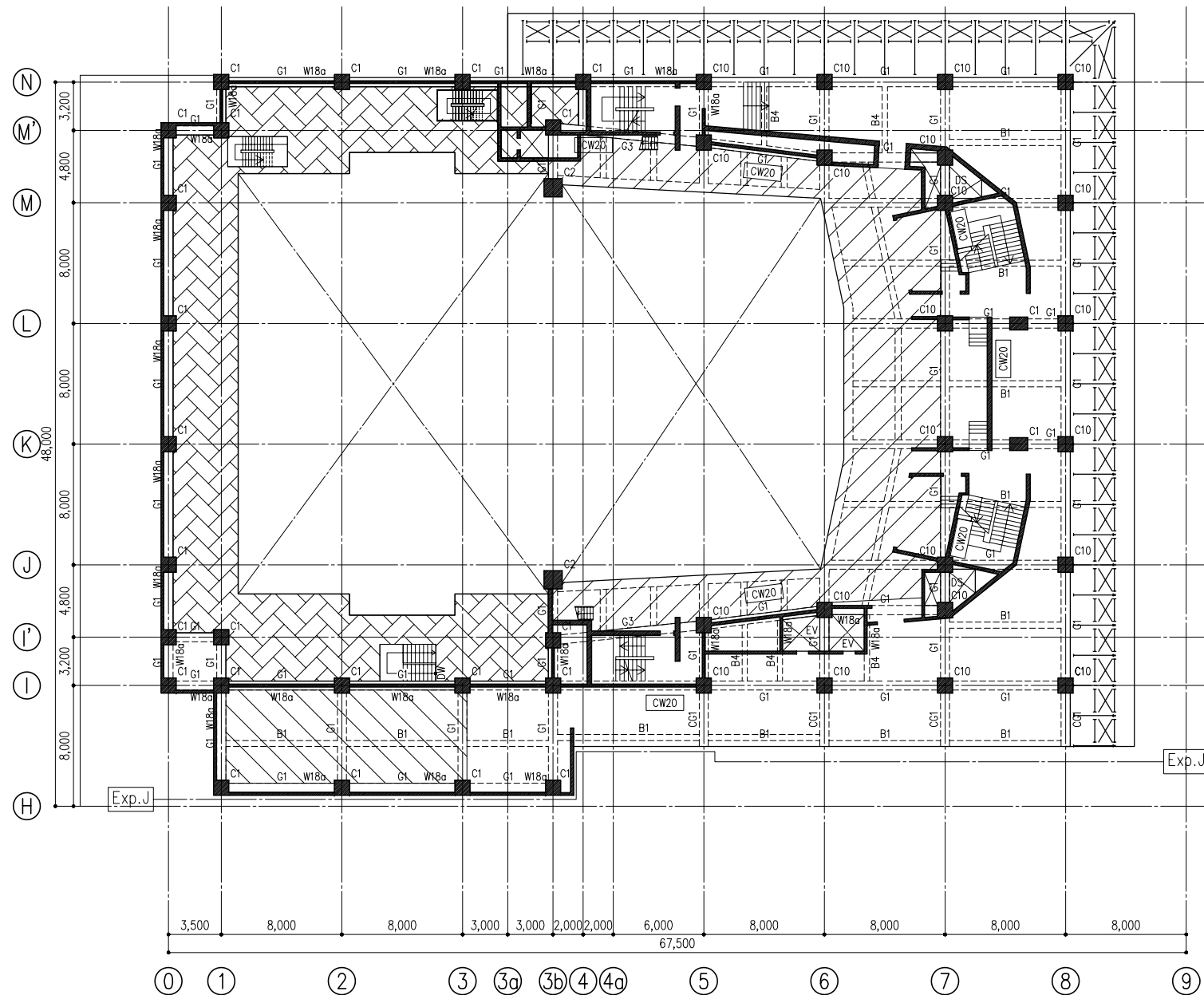
2階床伏図 共通事項

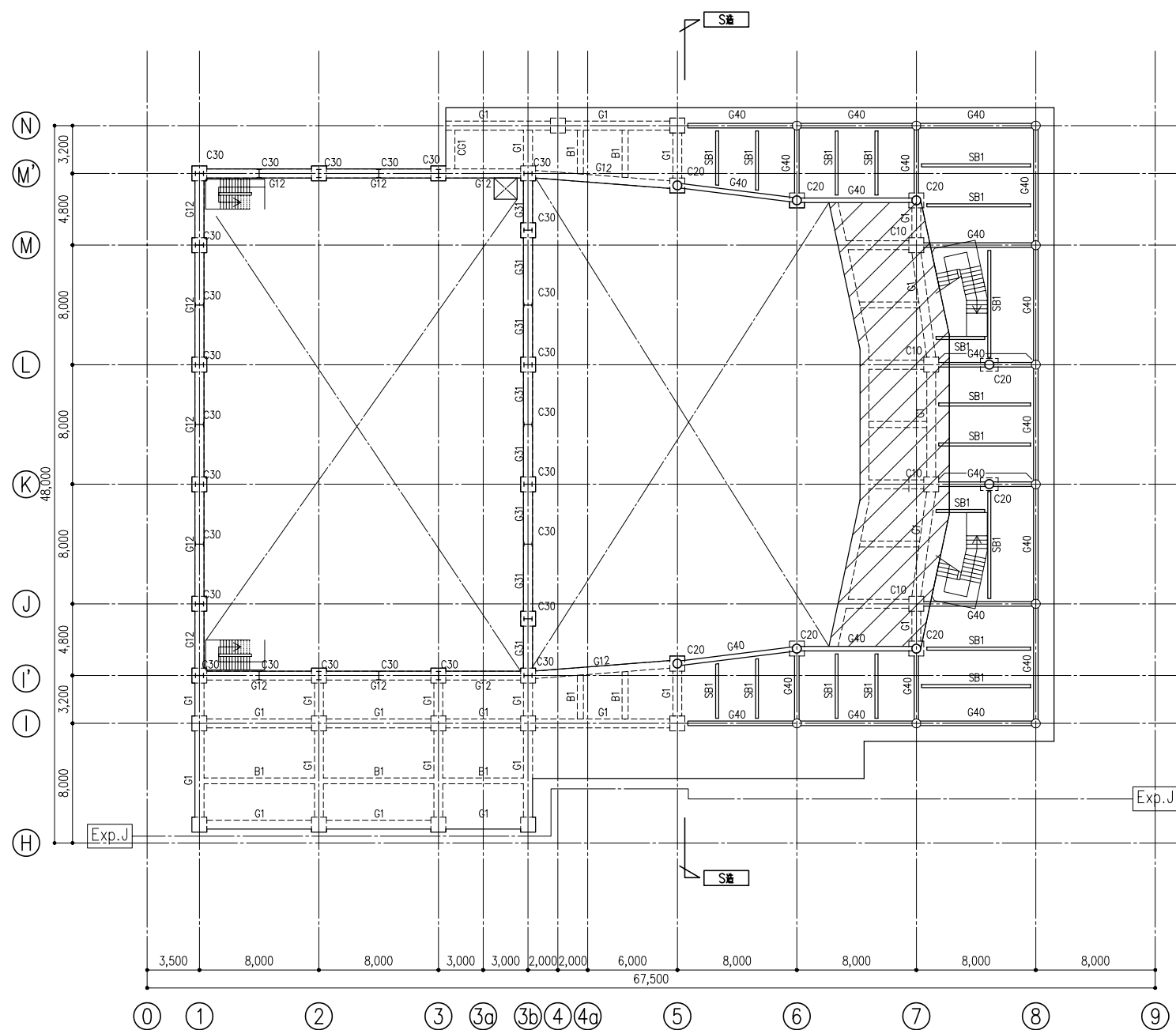
特記なき限り下記による。

- 2FL=1FL+3,500
- スラブ、梁上端レベル

スラブ上端	梁上端
2FL- 30	2FL- 30
2FL- 100	2FL- 100
客席	

- スラブ符号は、S1とする。
- CW20は、鋼板コンクリート耐震壁を示す。





5階床伏図 S=1:400
(5階柱壁・5階床梁伏図)

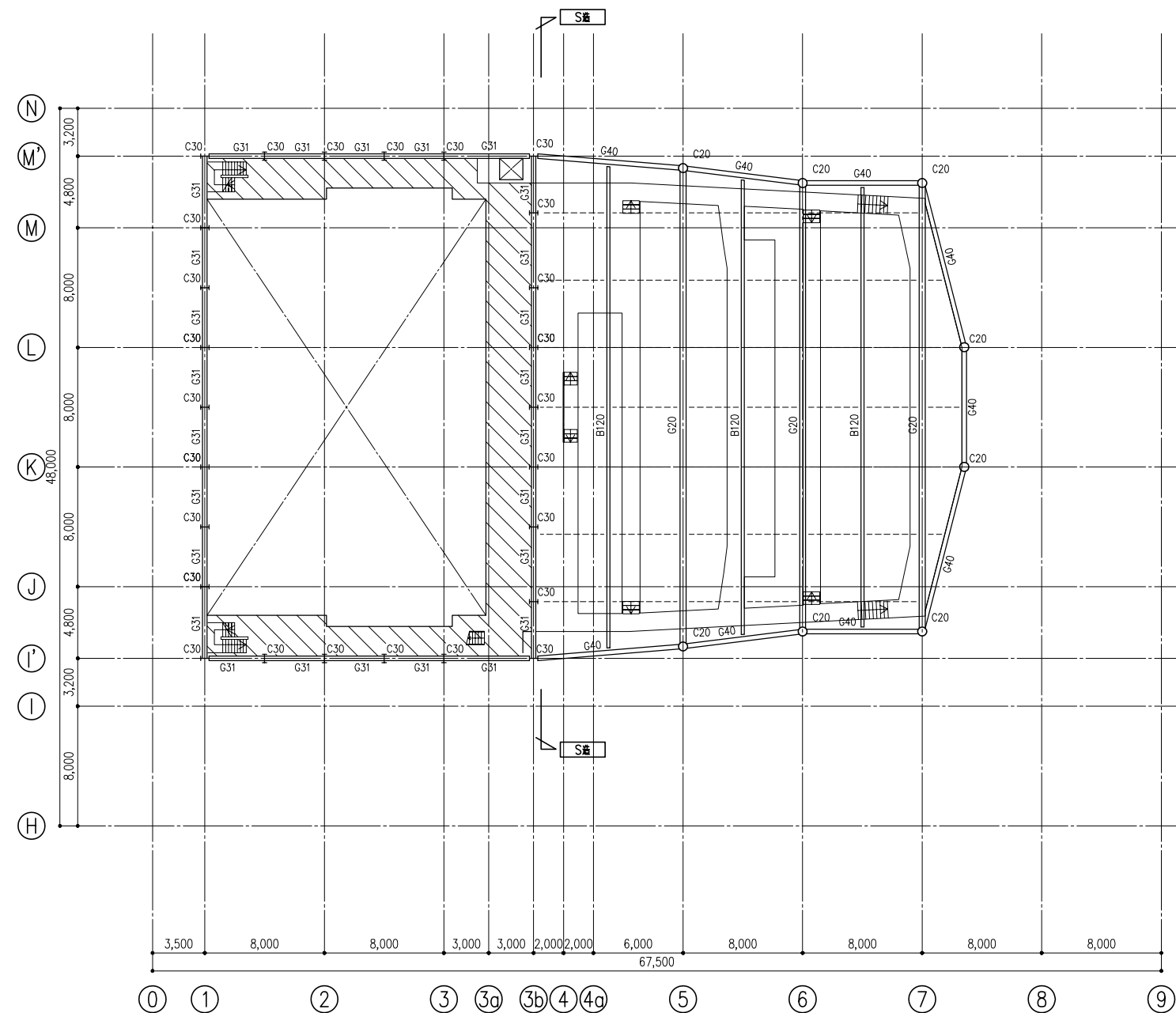
5階床伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

- 5FL=1FL+16,050
- スラブ、梁上端レベル

スラブ上端		梁上端	
	5FL± 0		5FL± 0
	客席		
	鉄骨柱±0伏		

- スラブ符号は、S1とする。



客席屋根SL床伏図 S=1:400
(客席屋根SL柱壁・客席屋根SL床梁伏図)

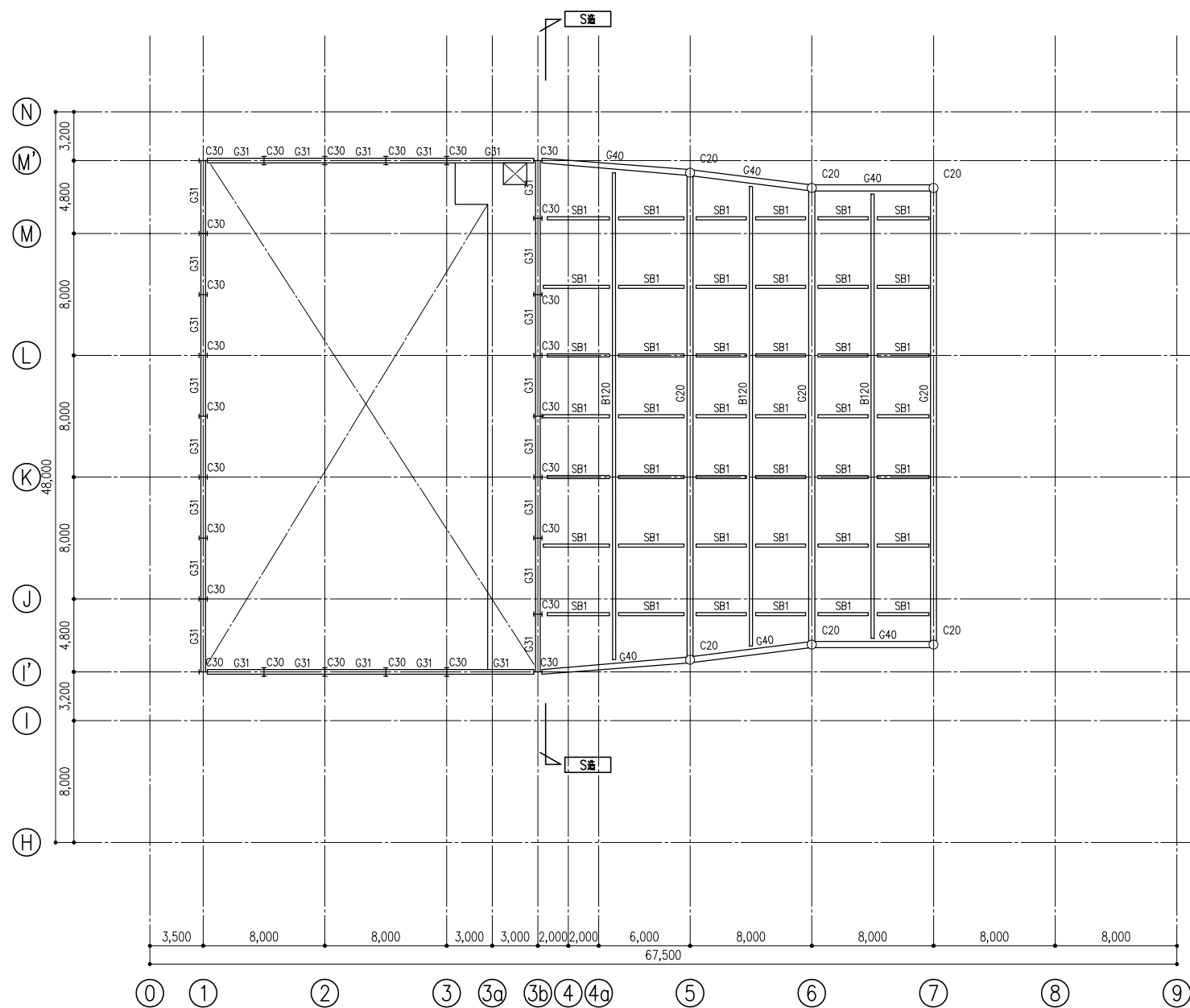
6階床伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

- 6FL=1FL+18,500
- スラブ、梁上端レベル

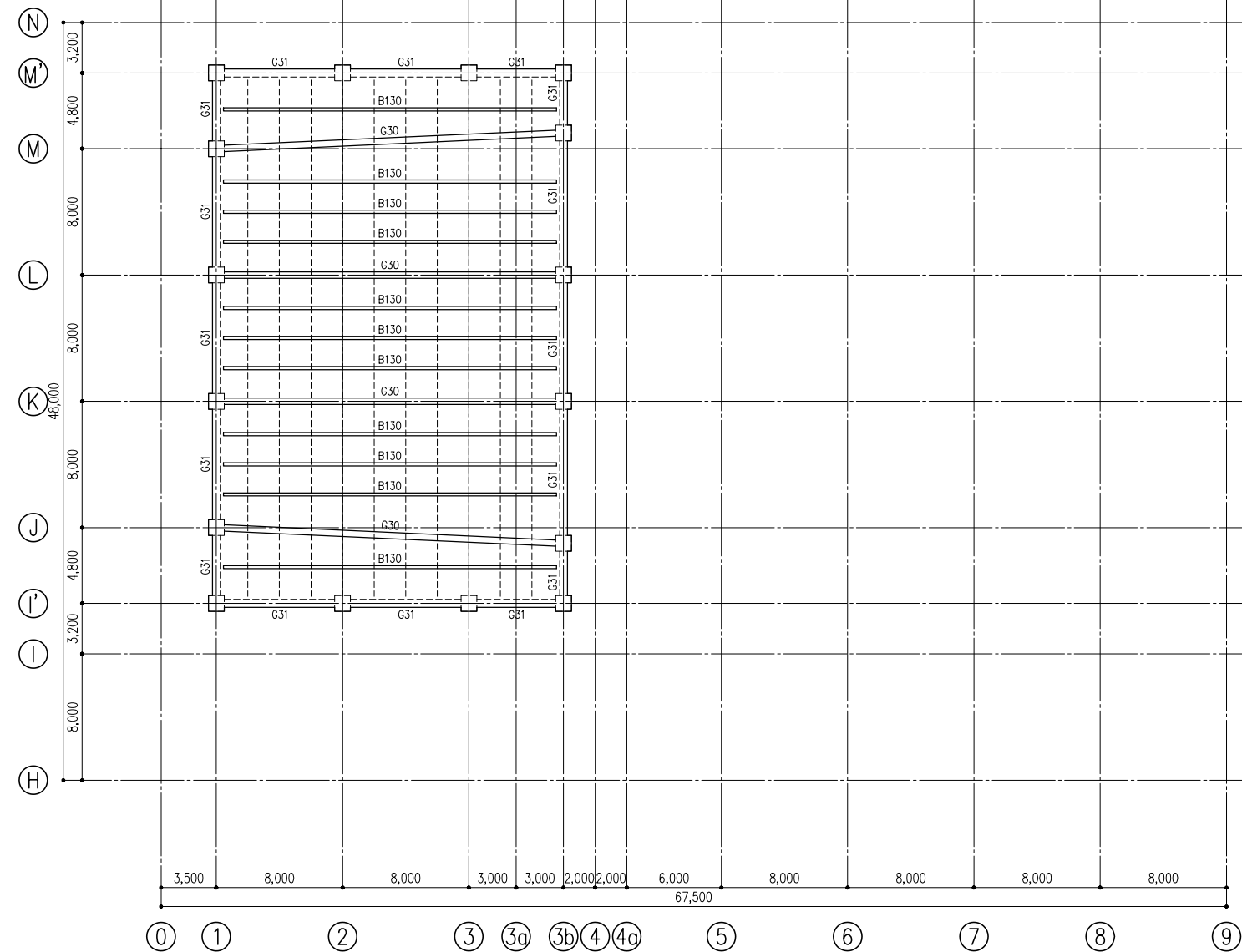
スラブ上端		梁上端	
	客席屋根SL+ 500		客席屋根SL+ 500
	客席屋根SL± 0		客席屋根SL± 0
	5FL+1,250		5FL+1,250

- スラブ符号は、S1とする。
- はT1、200×90×8×13.5とする。



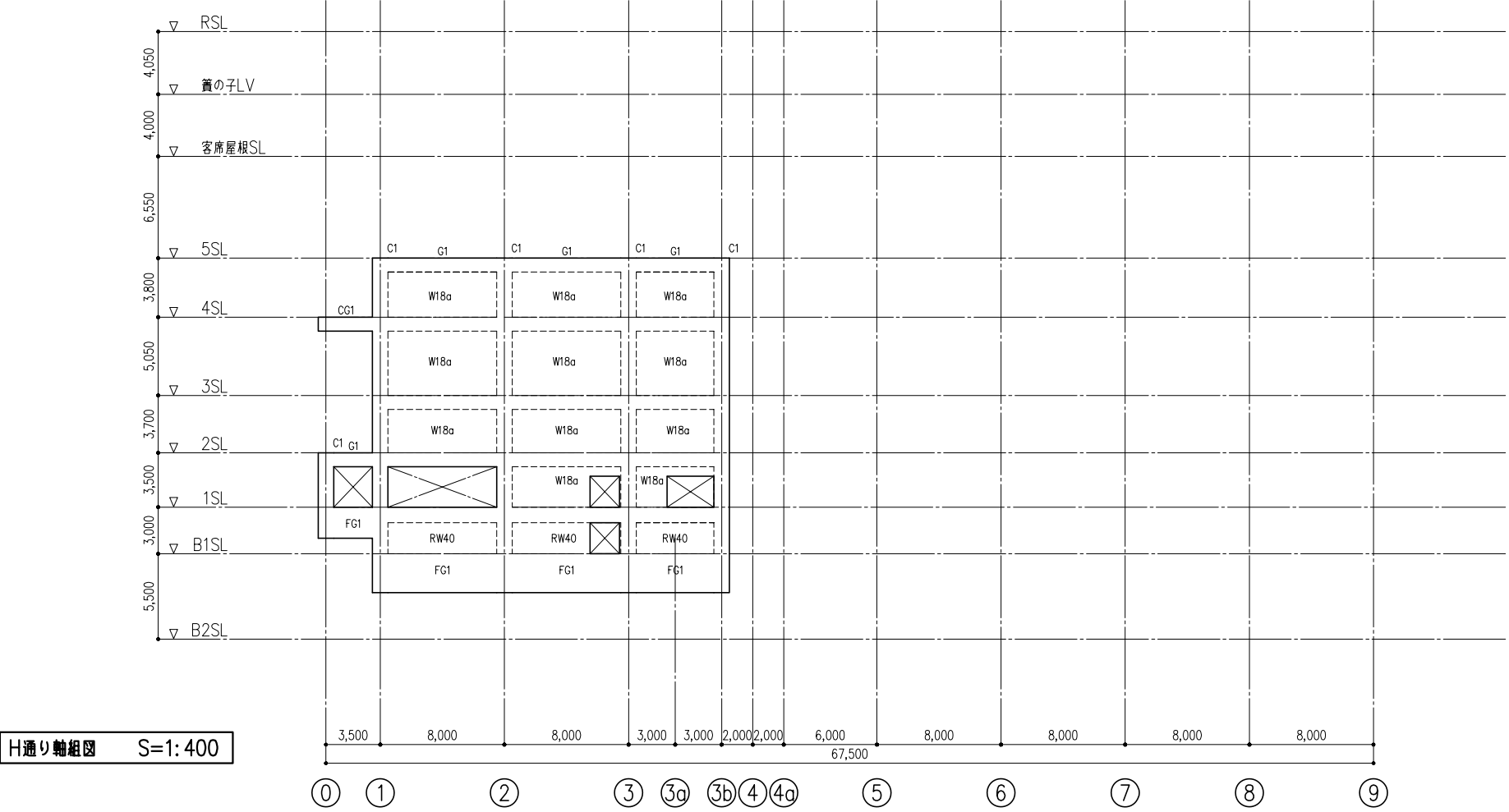
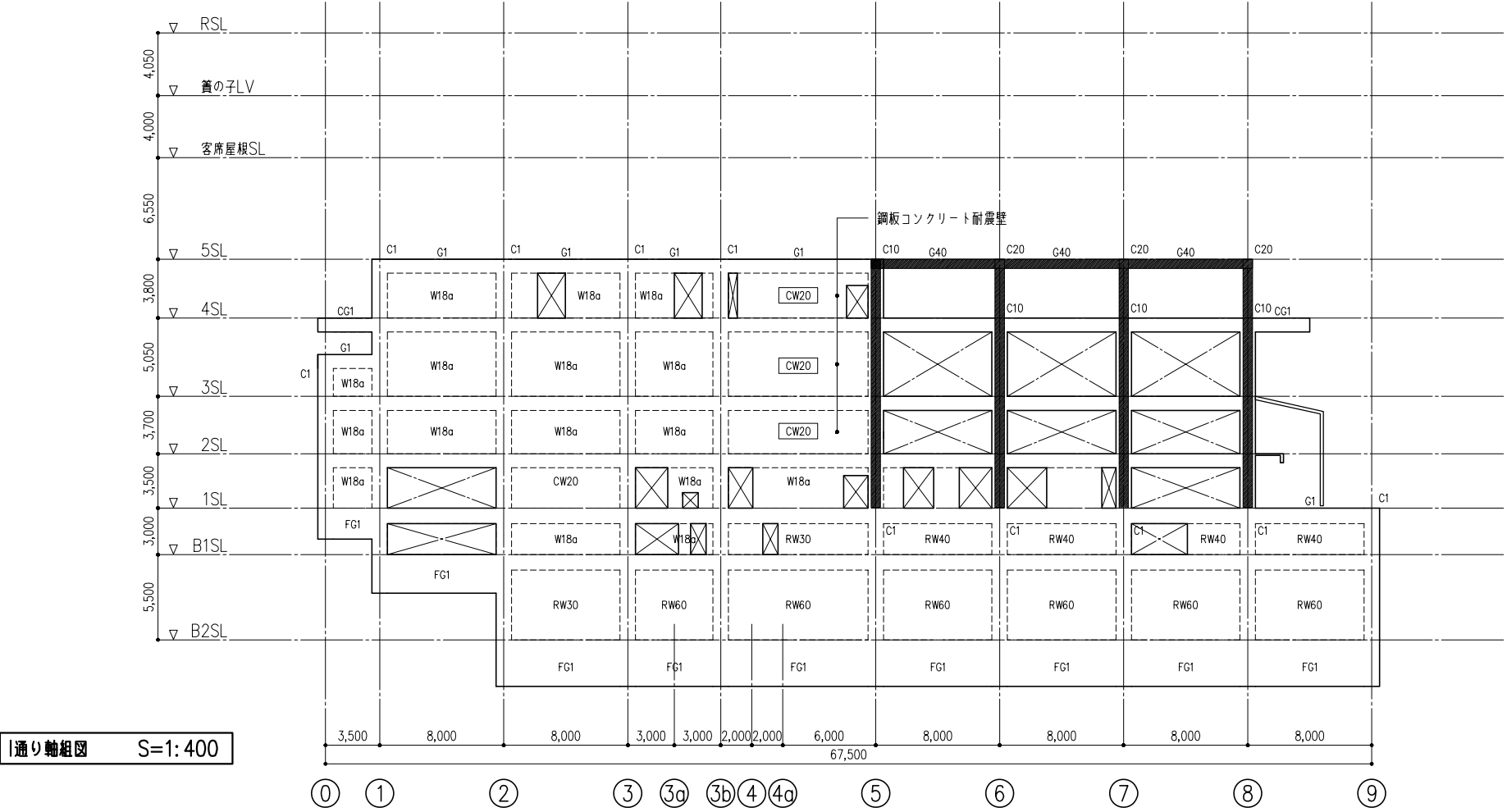
簀の子LV床伏図 S=1: 400
(簀の子LV柱壁・簀の子LV床梁伏図)

7階床伏図 共通事項
特記なき限り下記による。
1. 簀の子LV=1FL+26,790
2. スラブ符号は、S1とする。

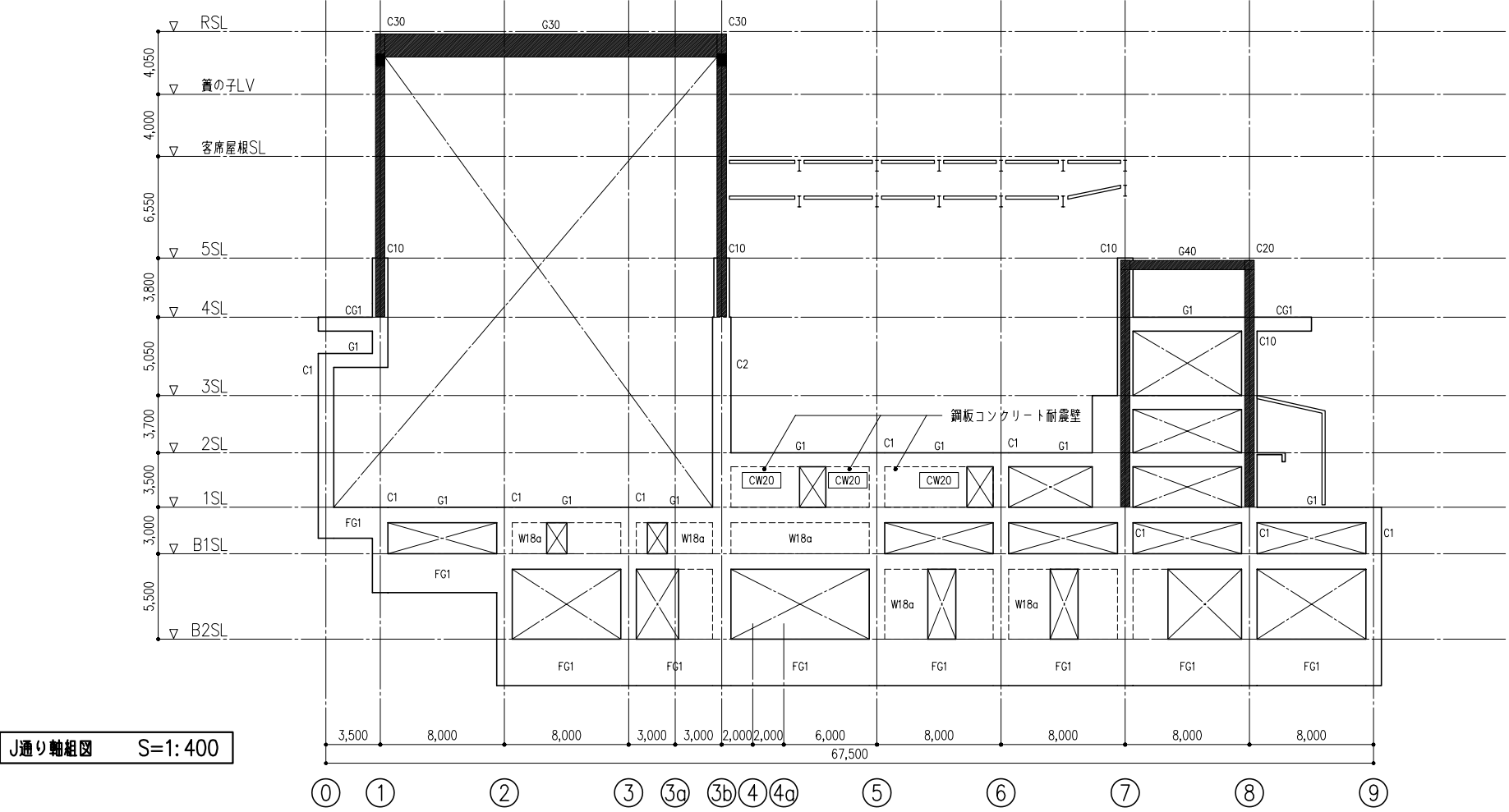
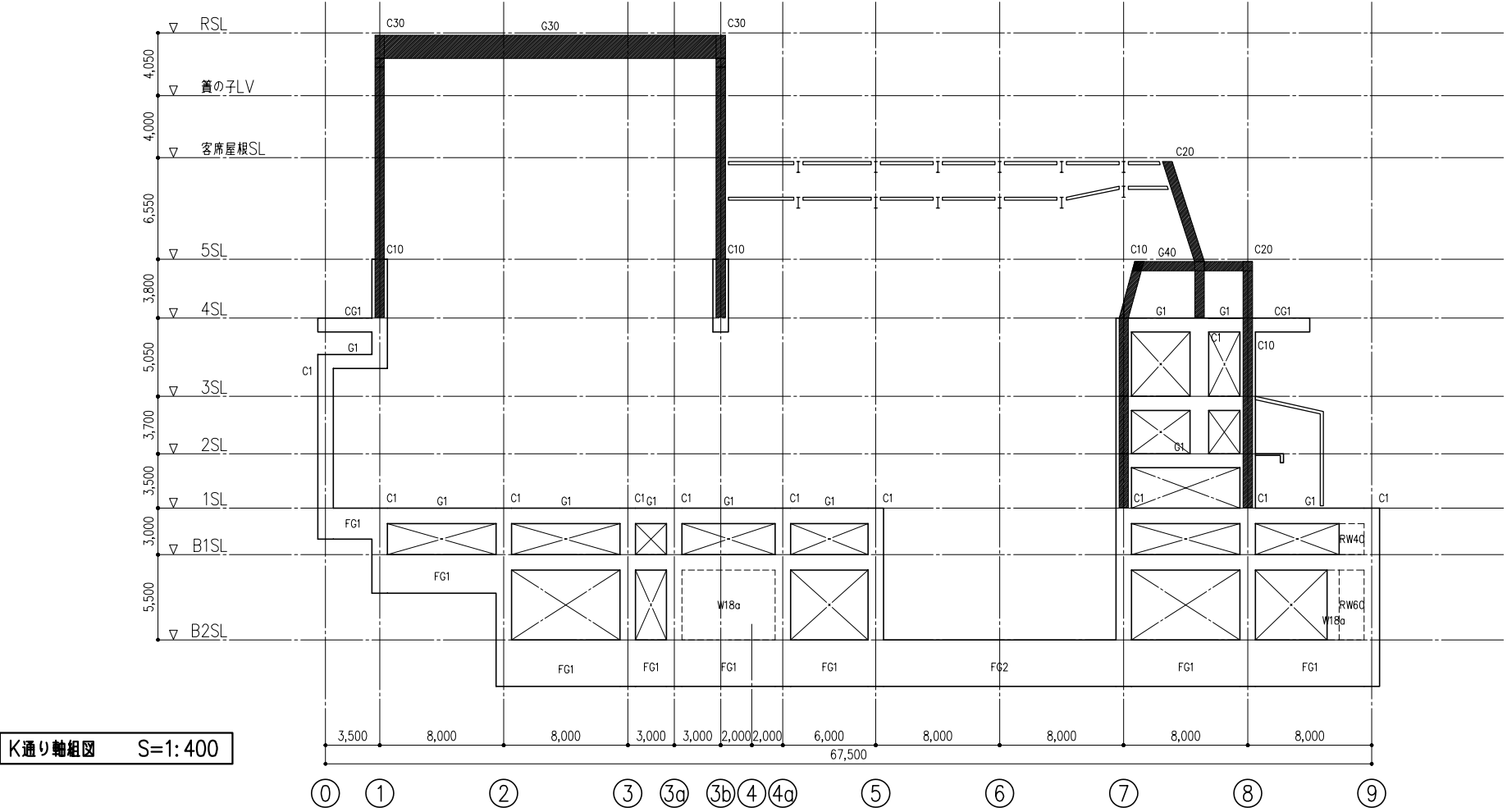


R階床伏図 S=1: 400
(8階柱壁・8階床梁伏図)

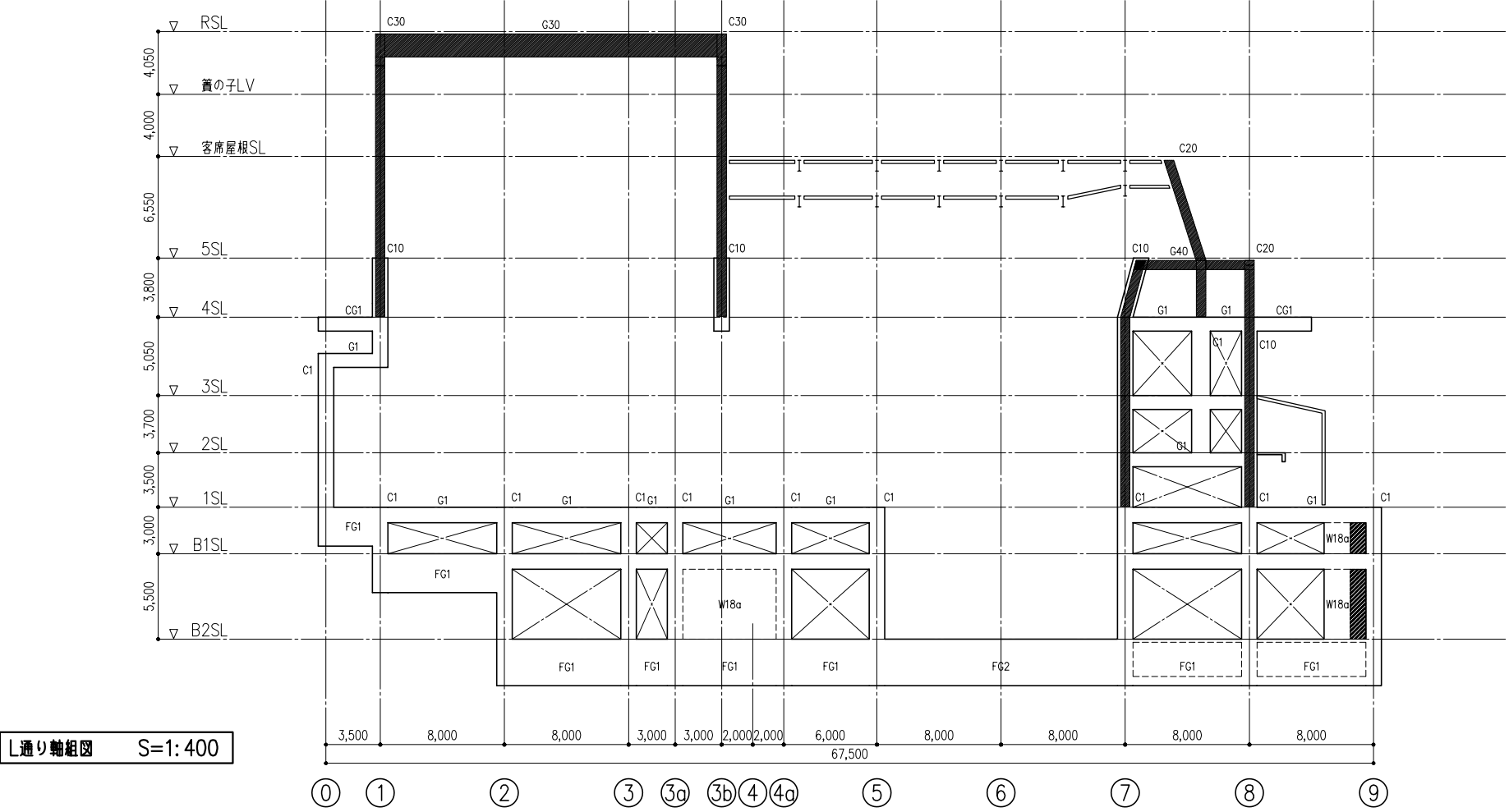
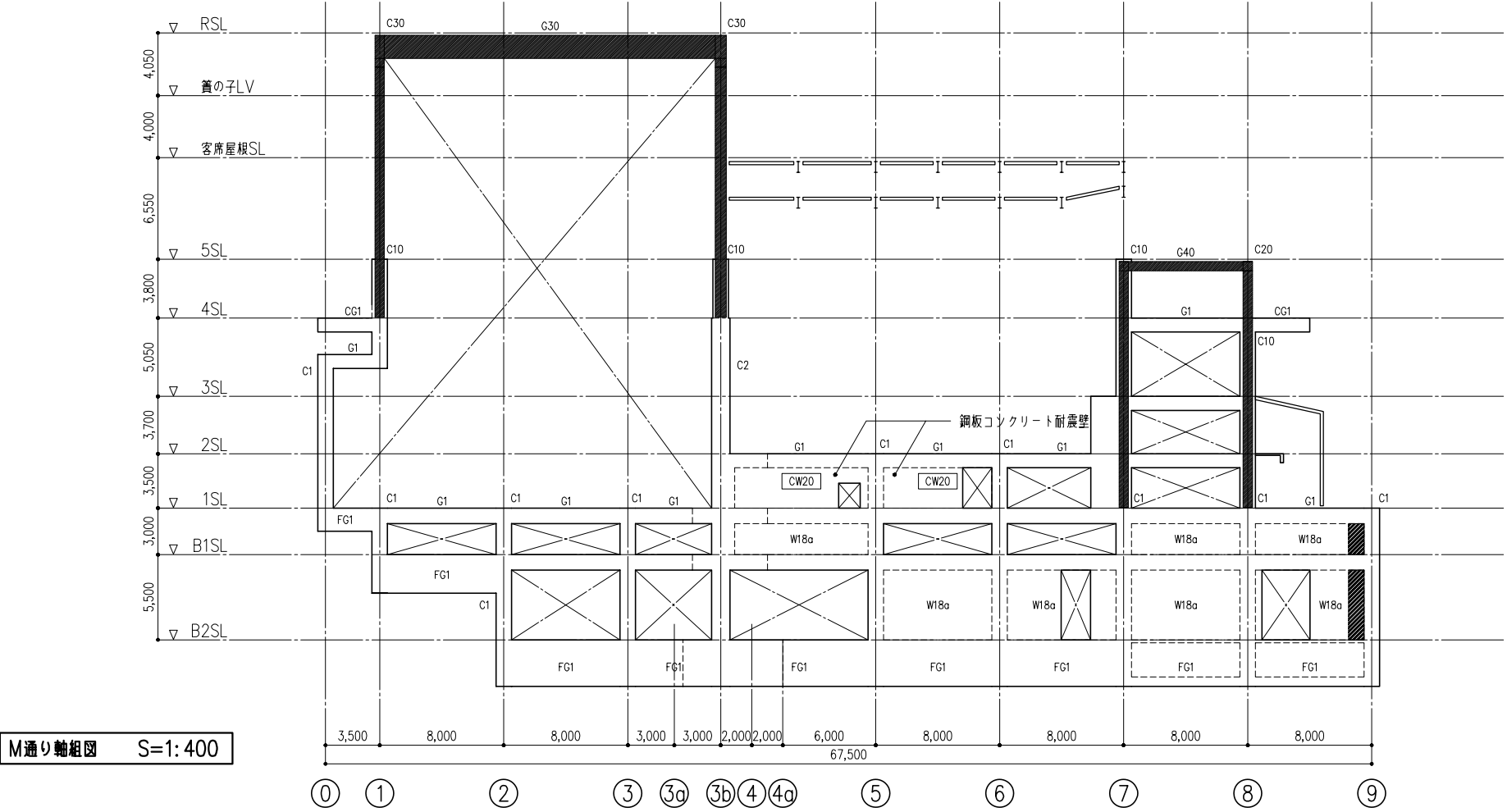
R階床伏図 共通事項
特記なき限り下記による。
1. 8FL=1FL+30,500
2. スラブ符号は、S1とする。
3. ----- は、SB2@2000とする。



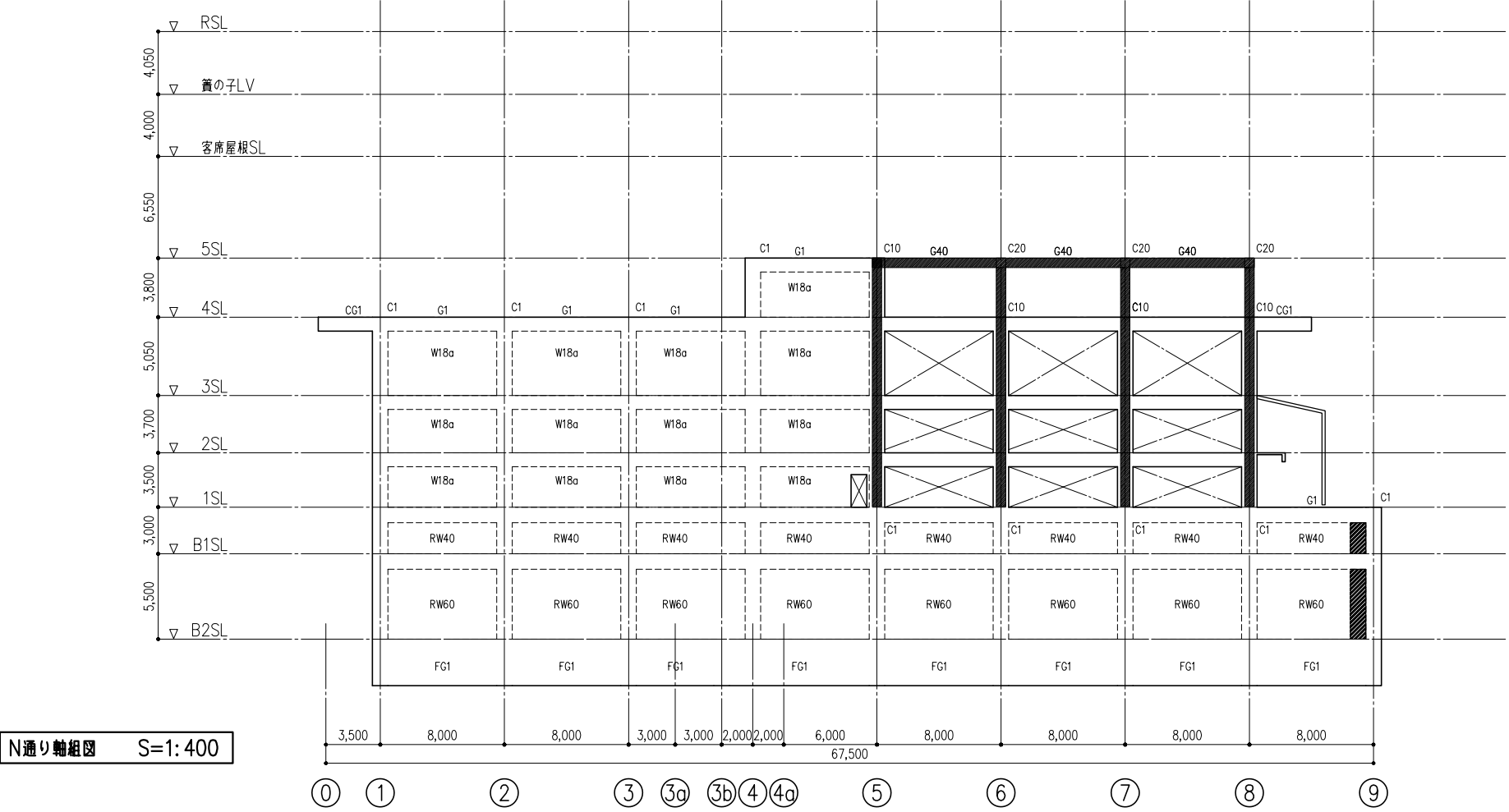
- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
1. 梁符号、柱符号は上階に倣う。
 2. [CW20] は、鋼板コンクリート耐震壁を示す。



- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
1. 梁符号、柱符号は上階に倣う。
 2. **CW20** は、鋼板コンクリート耐震壁を示す。

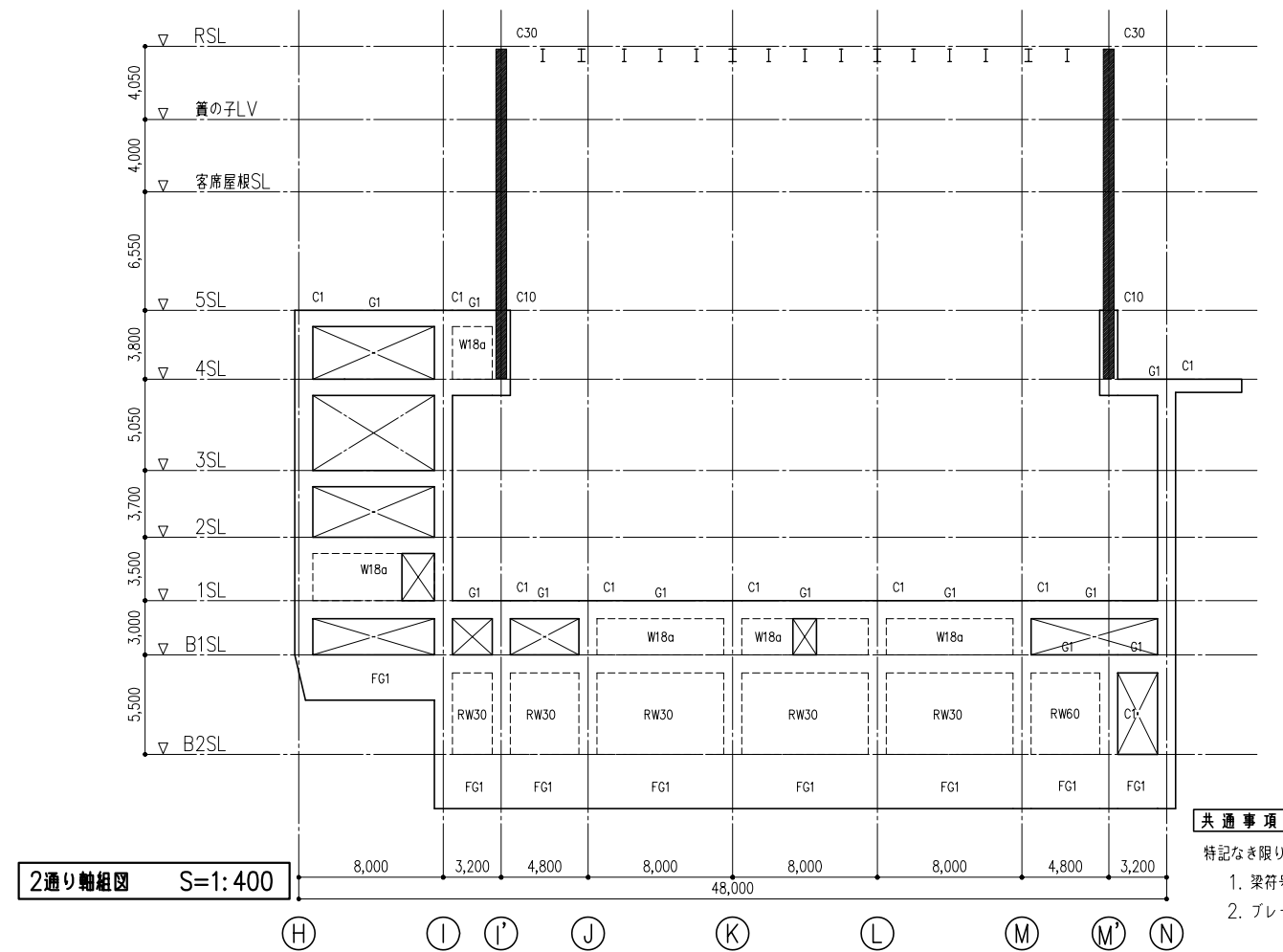
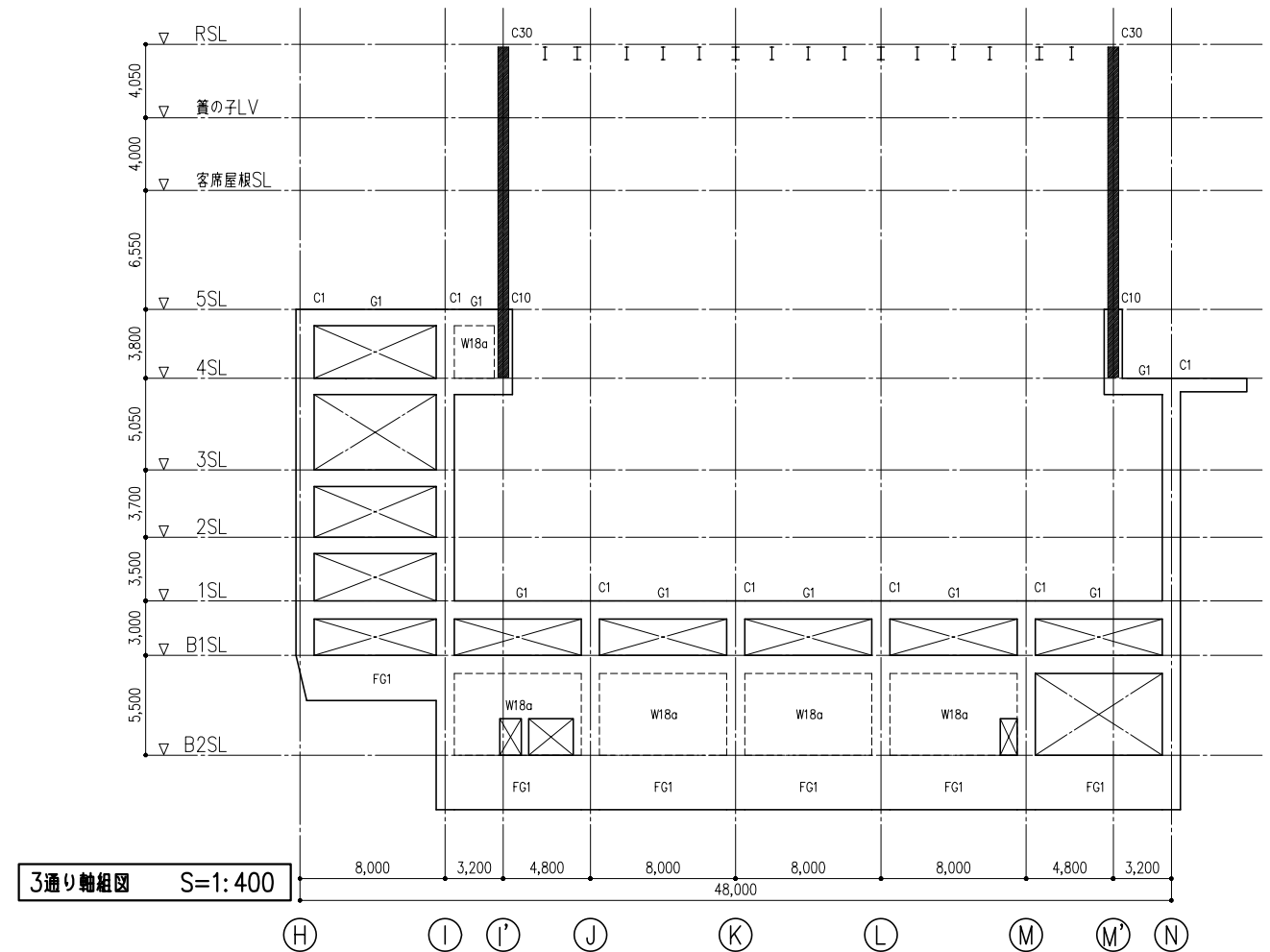
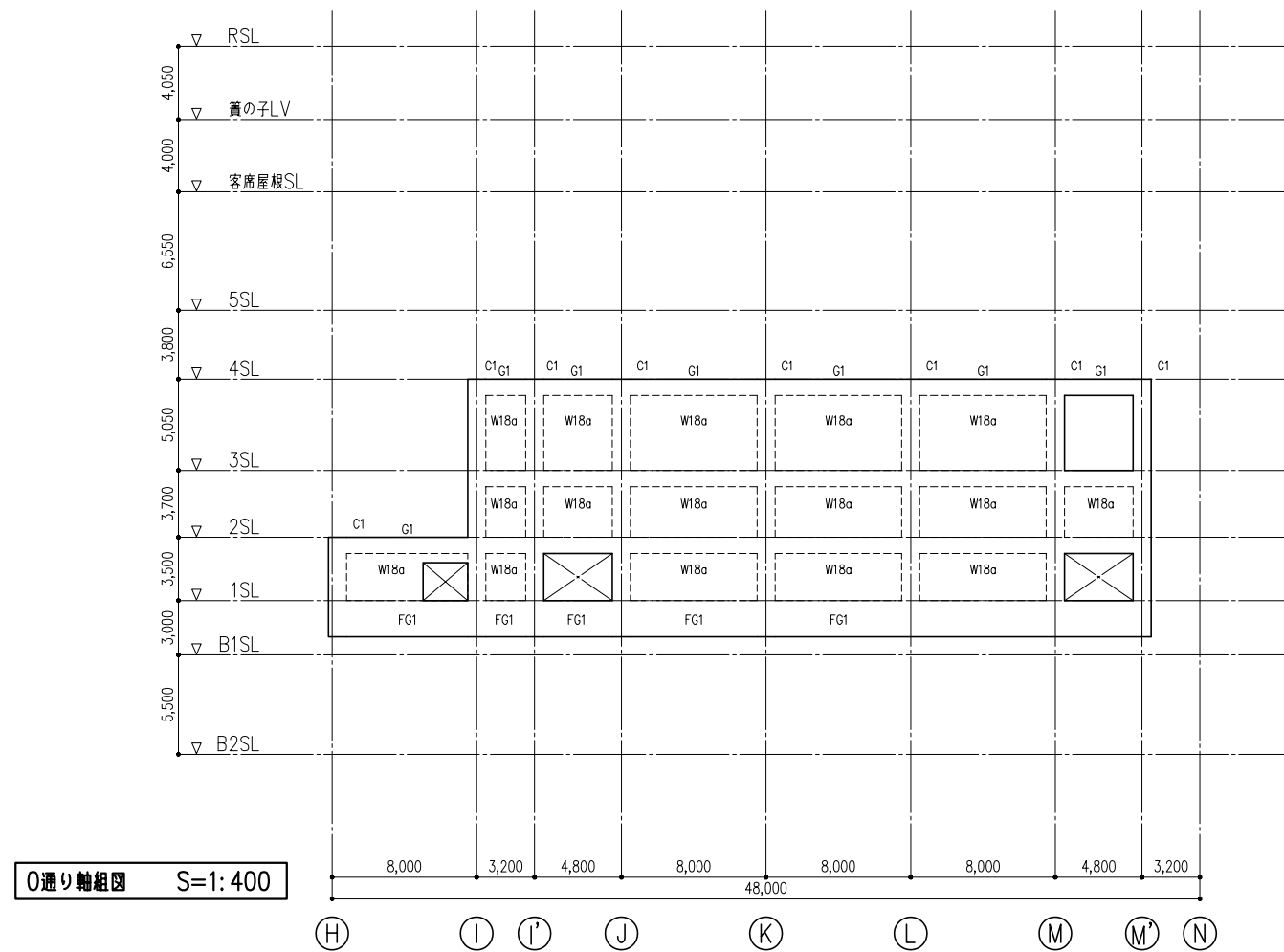
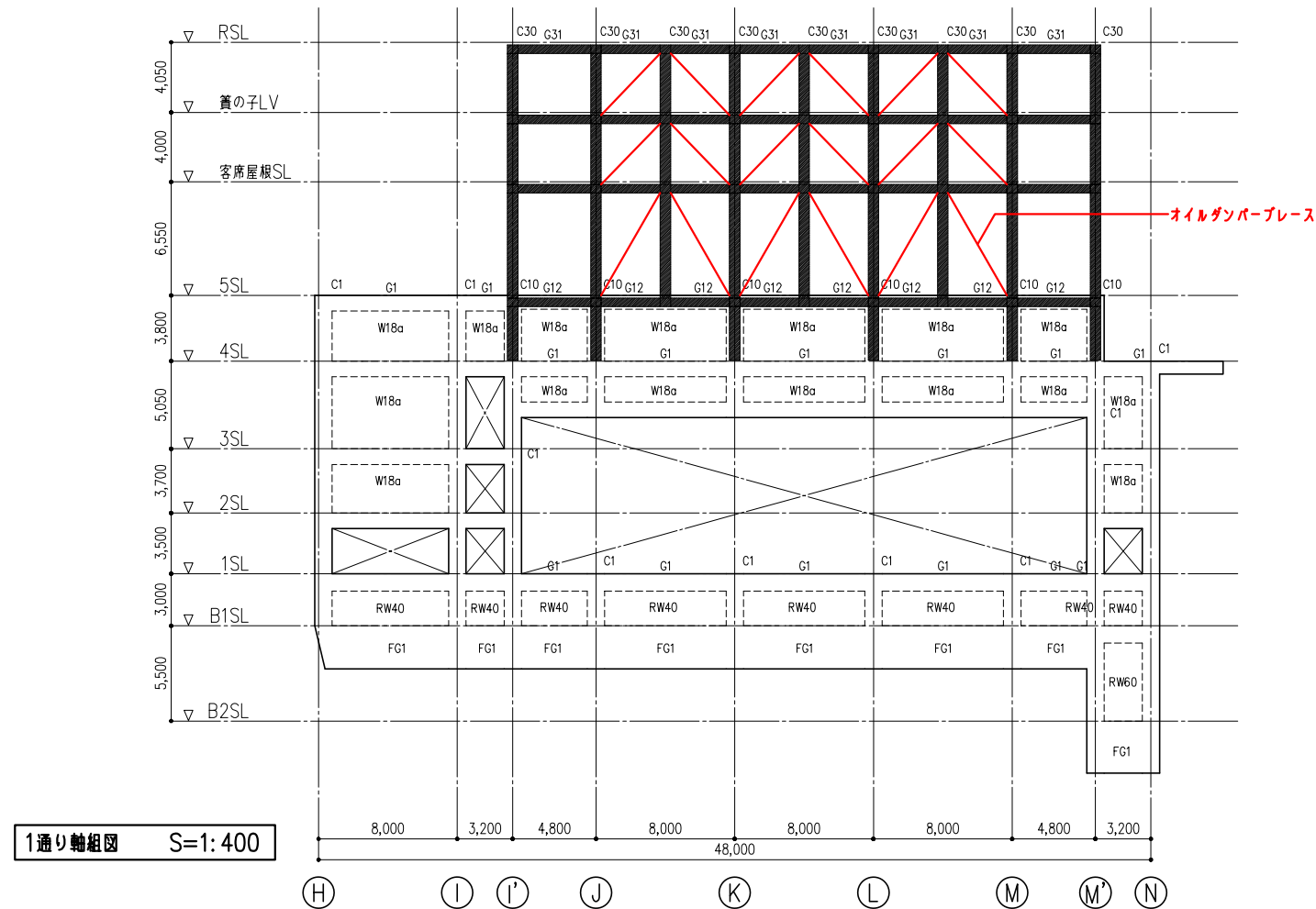


- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
1. 梁符号、柱符号は上階に倣う。
 2.  は、増し打ちです。
 3.  は、鋼板コンクリート耐震壁を示す。

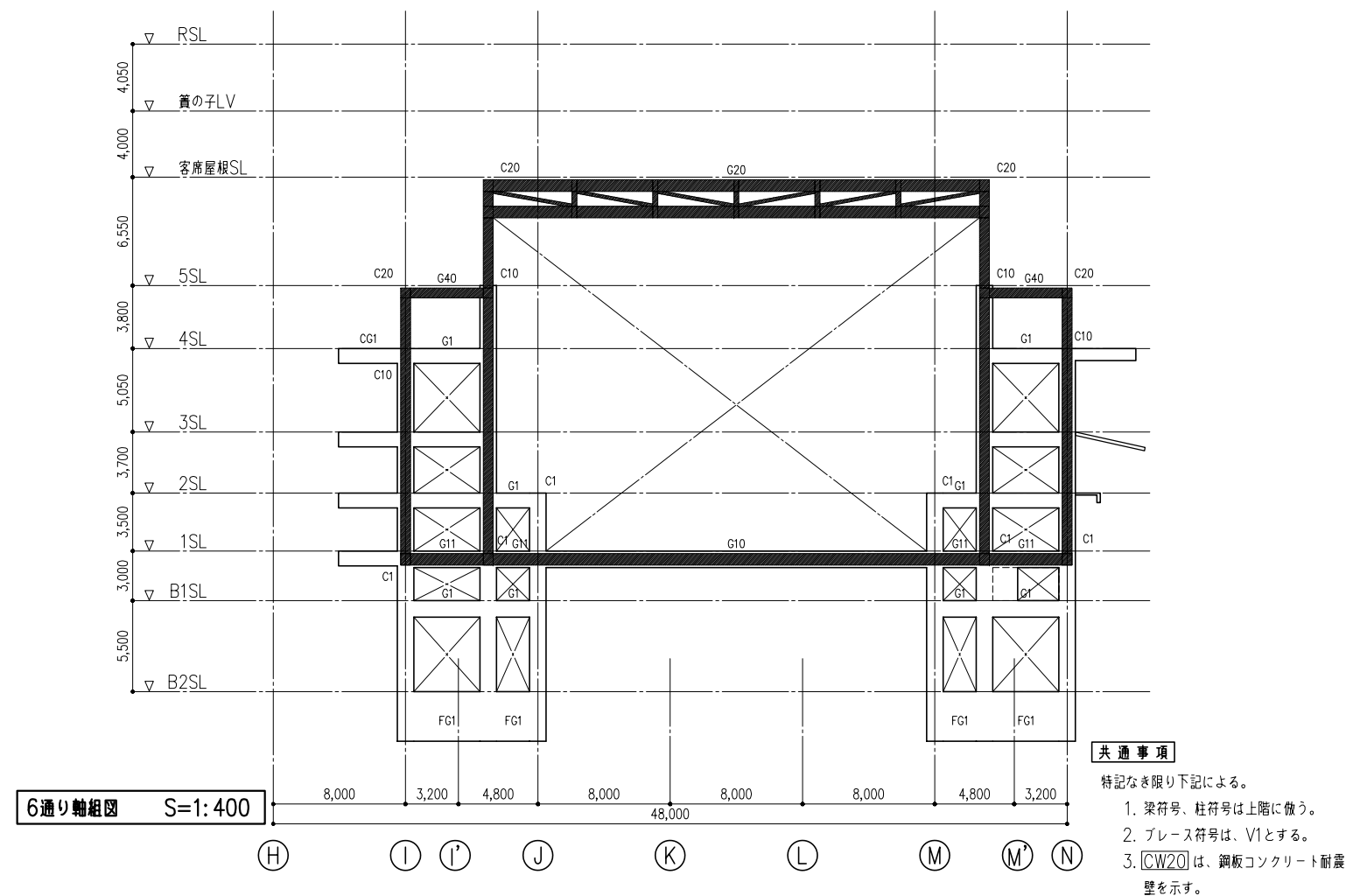
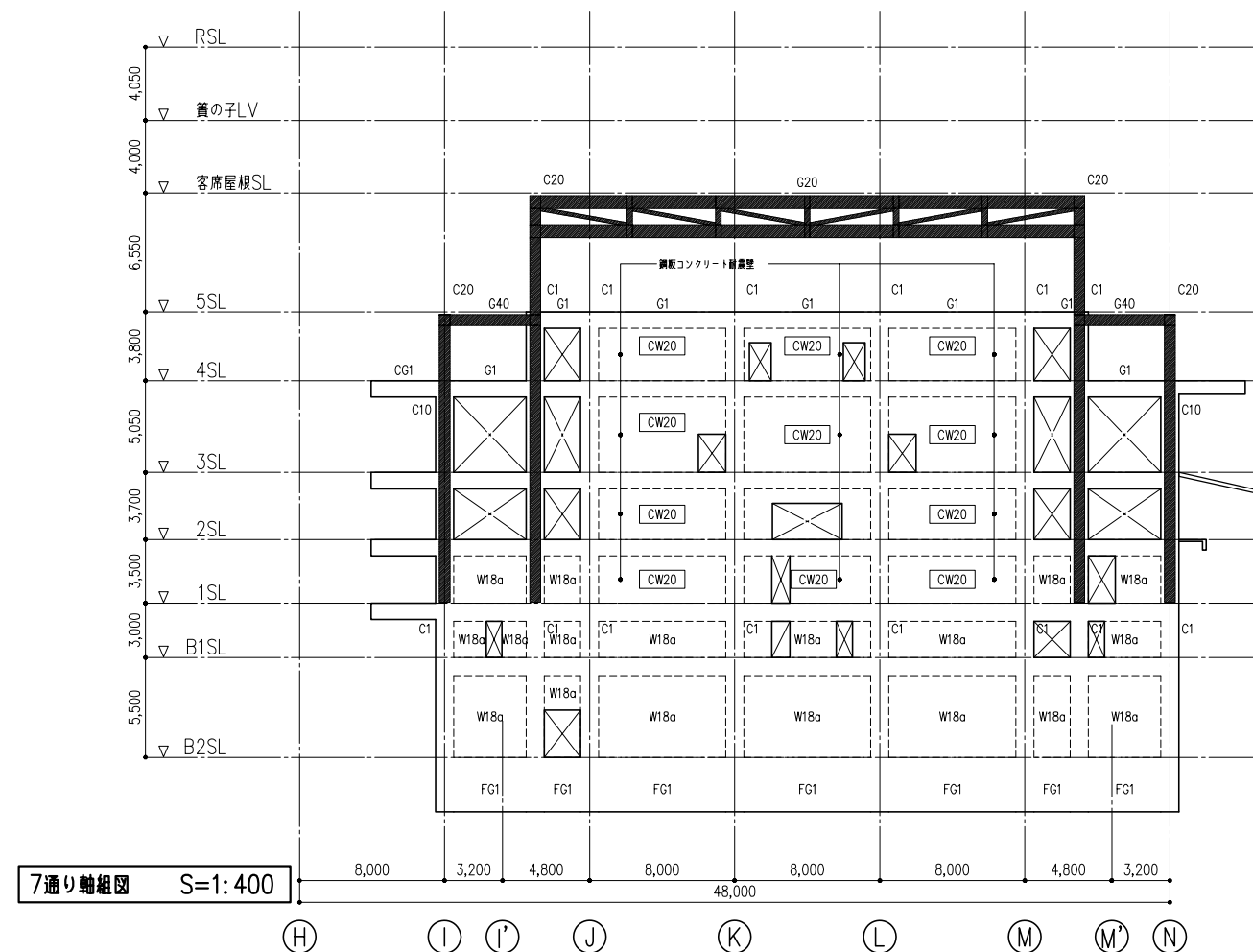
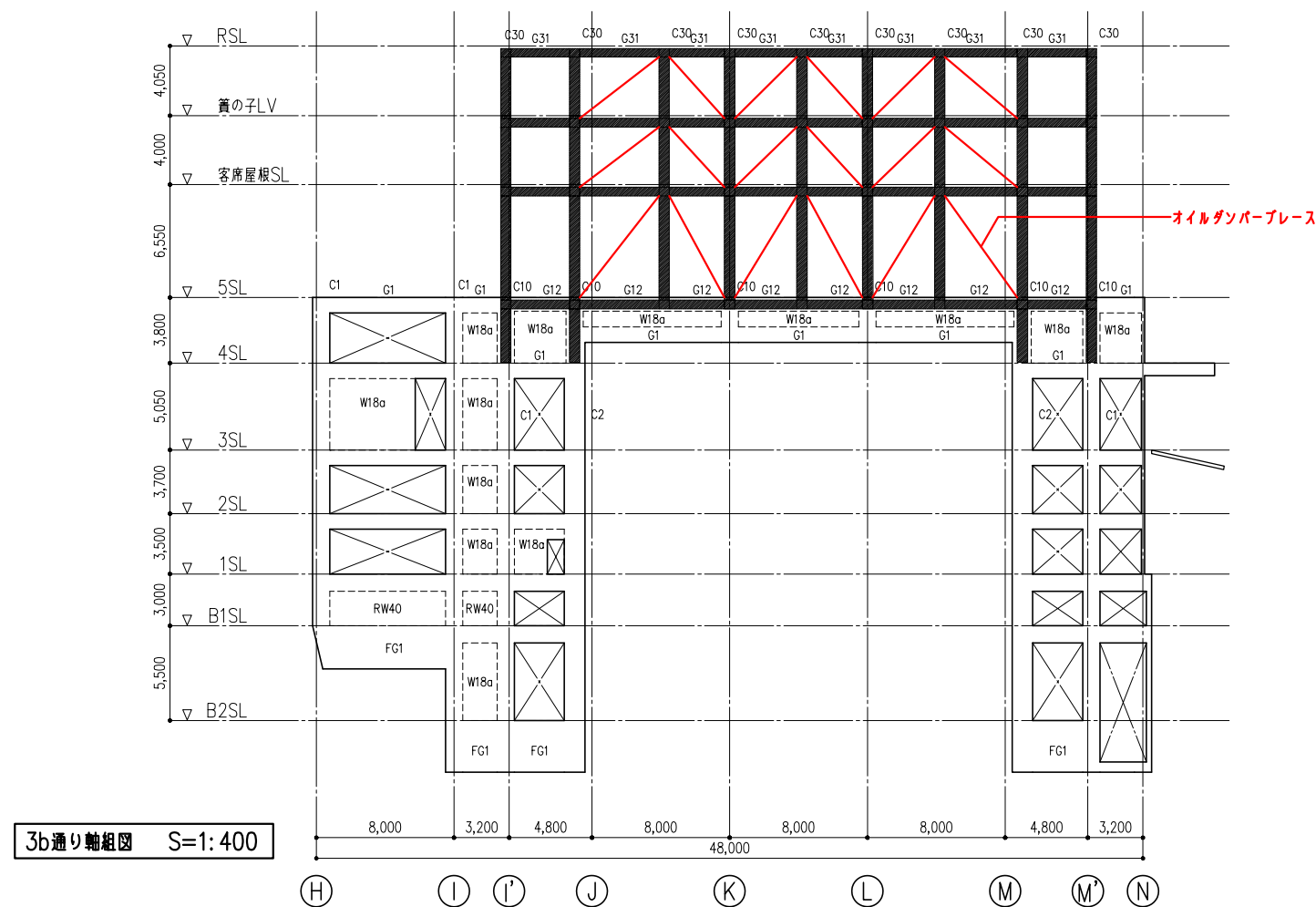
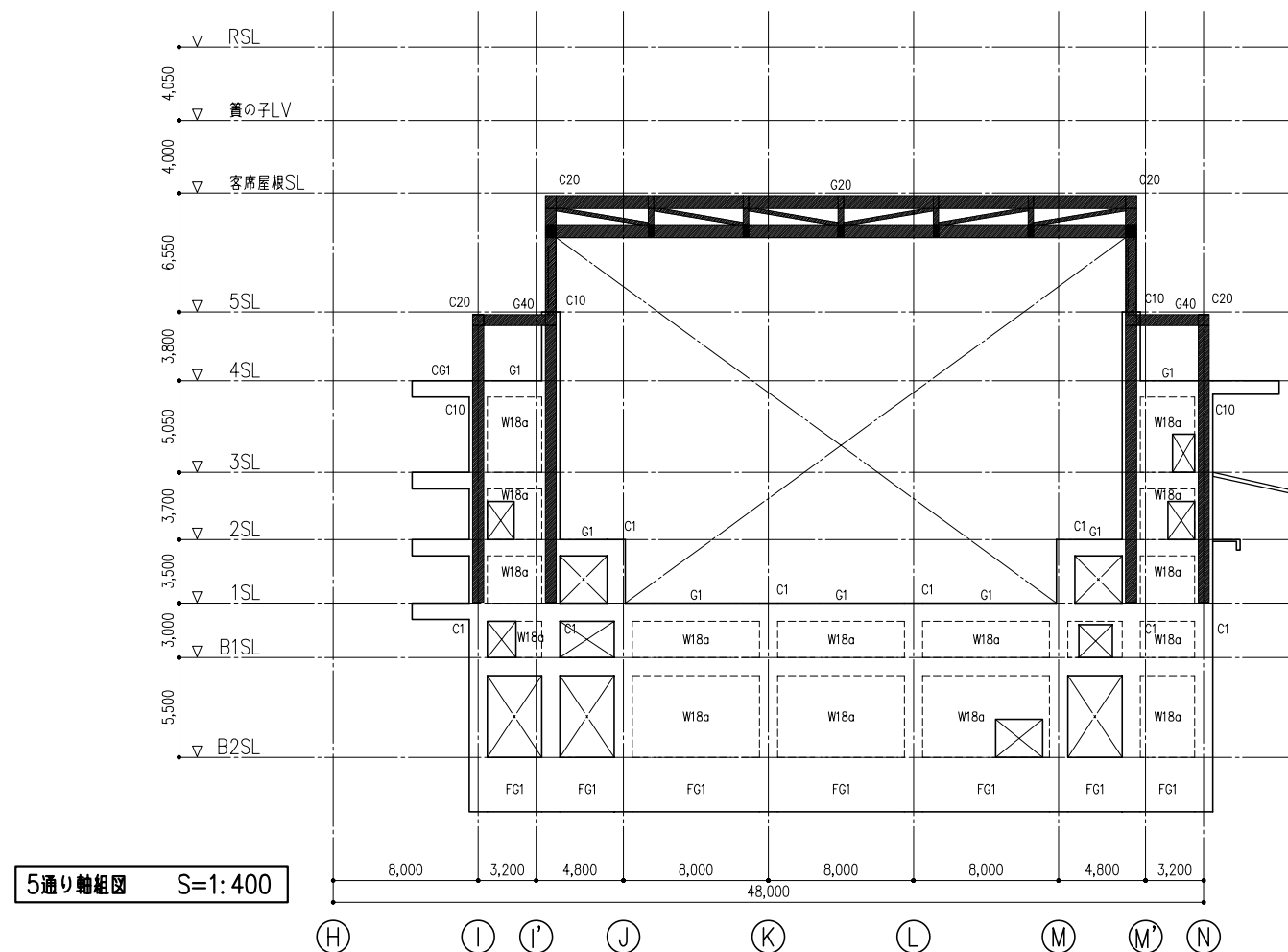


共通事項

- 特記なき限り下記による。
1. 梁符号、柱符号は上階に倣う。
 2.  は、増し打ちです。

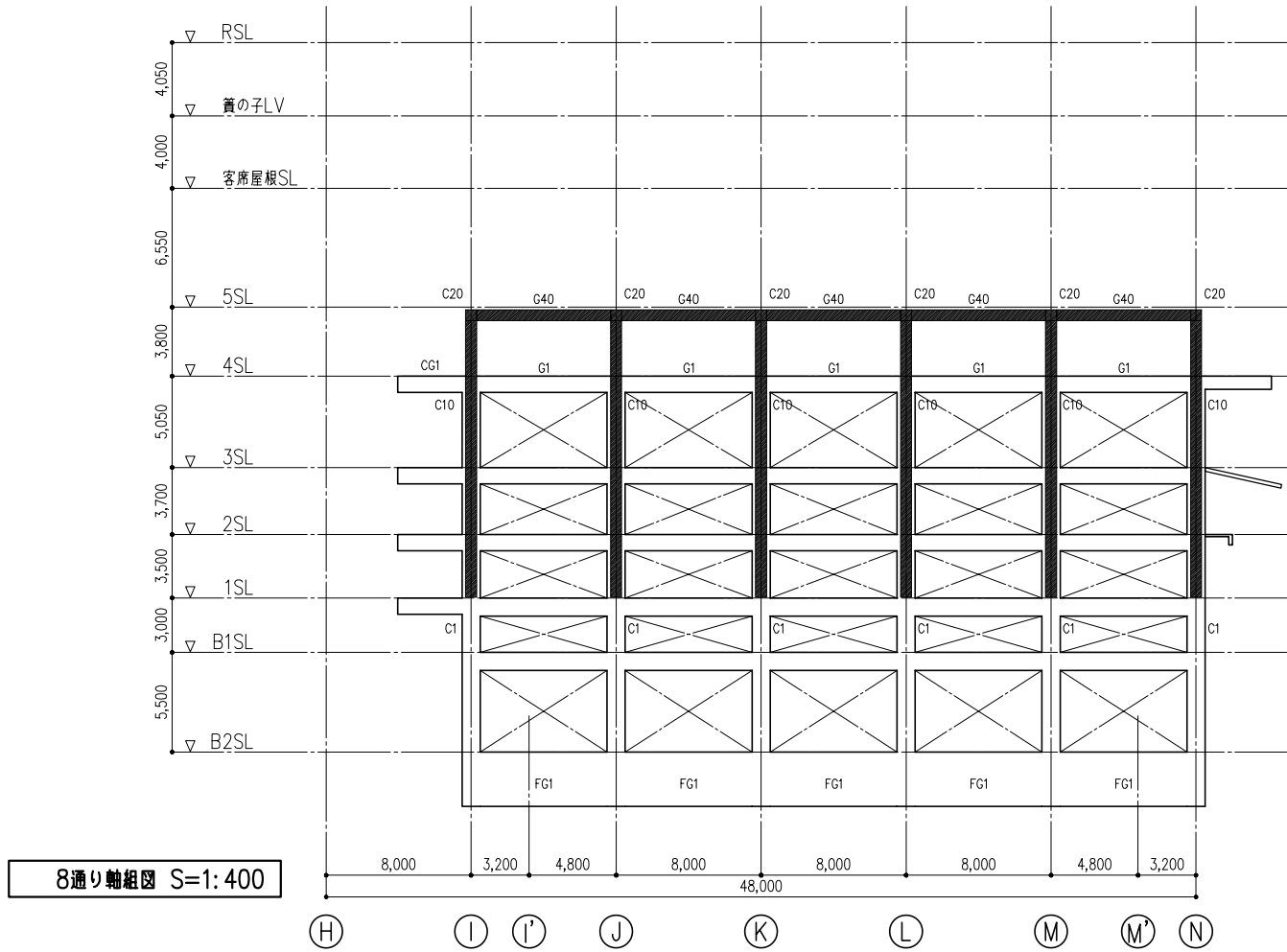
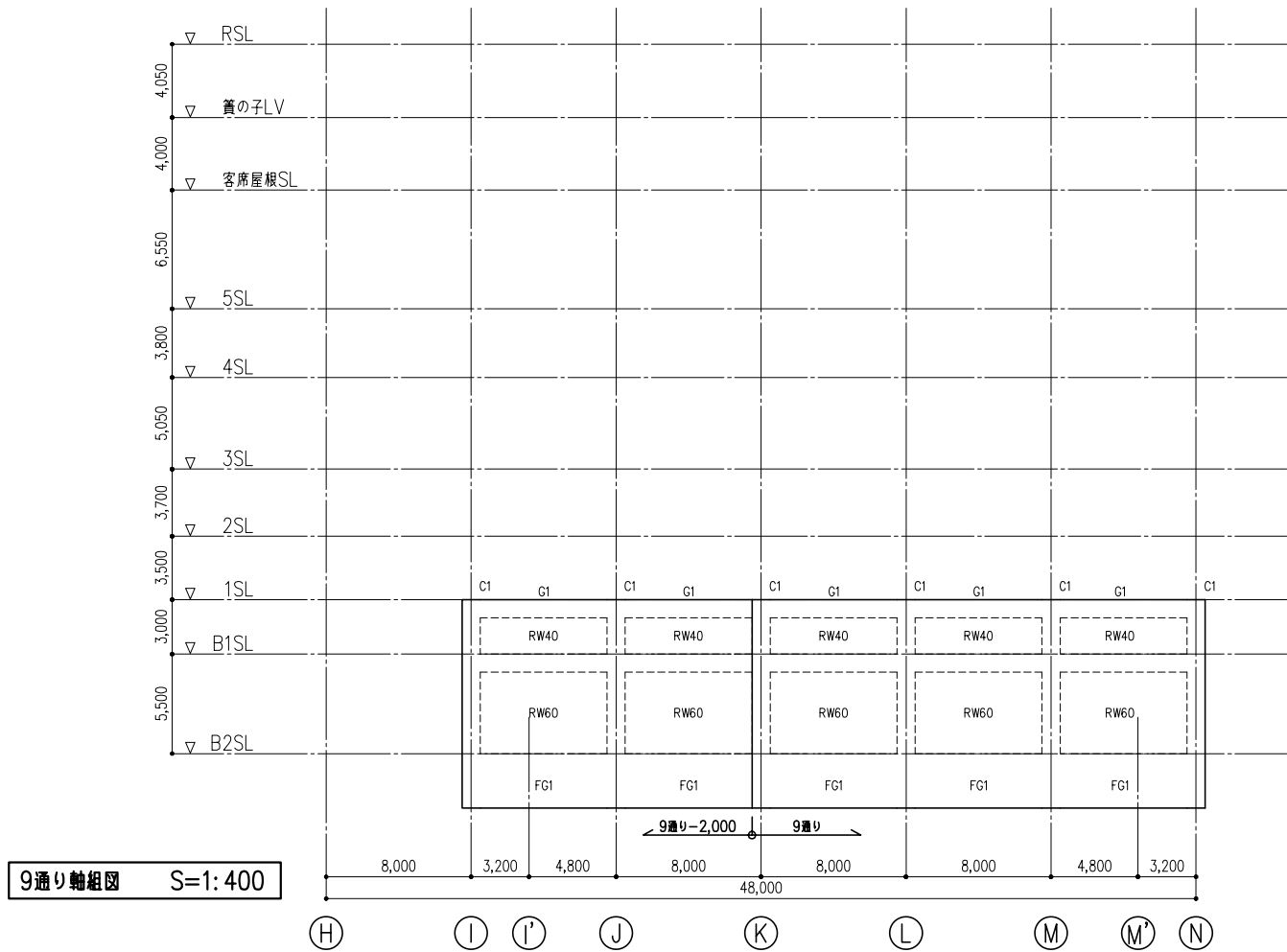


- 共通事項**
- 特記なき限り下記による。
1. 梁符号、柱符号は上階に倣う。
 2. ブレース符号は、V1とする。



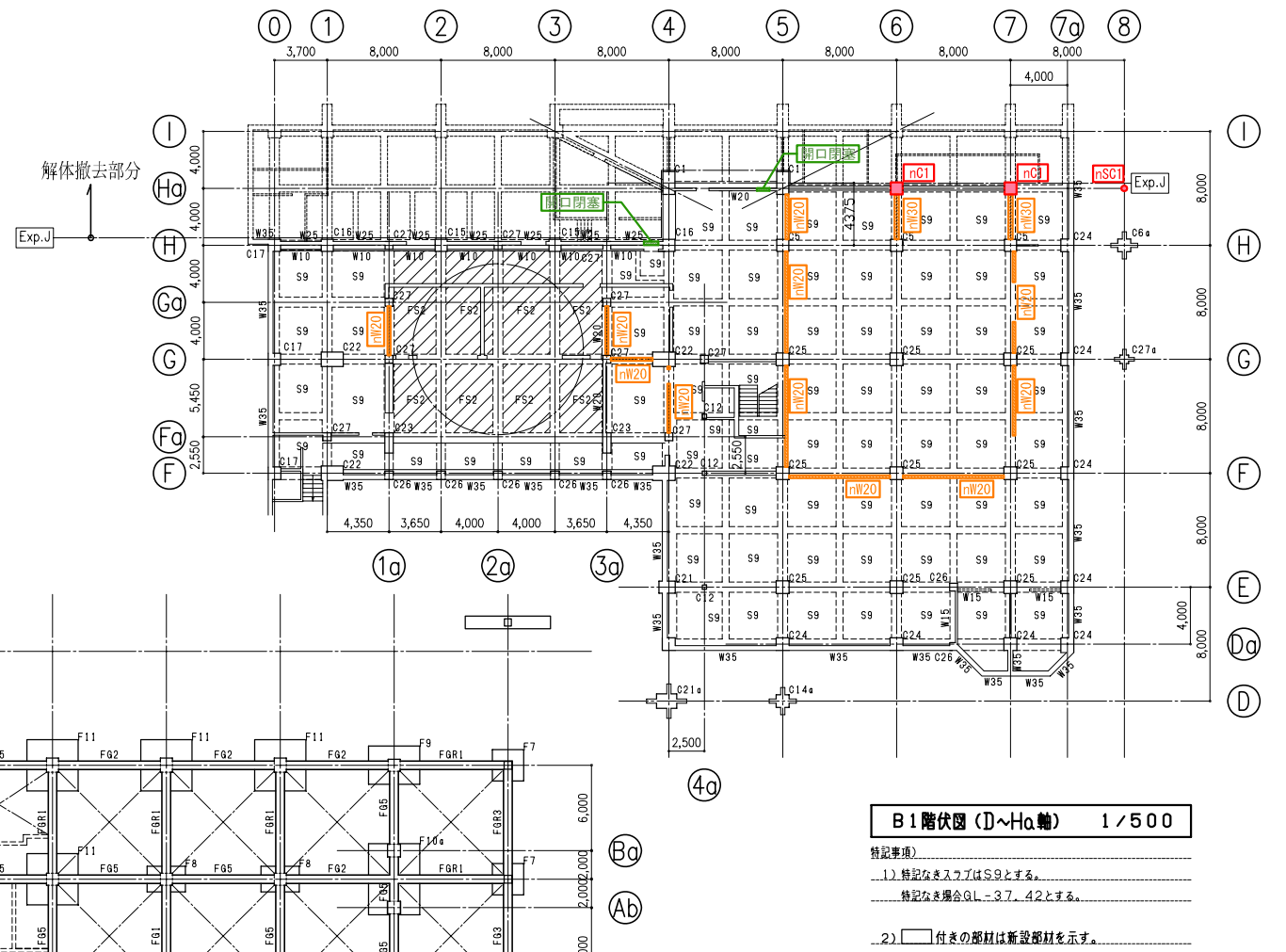
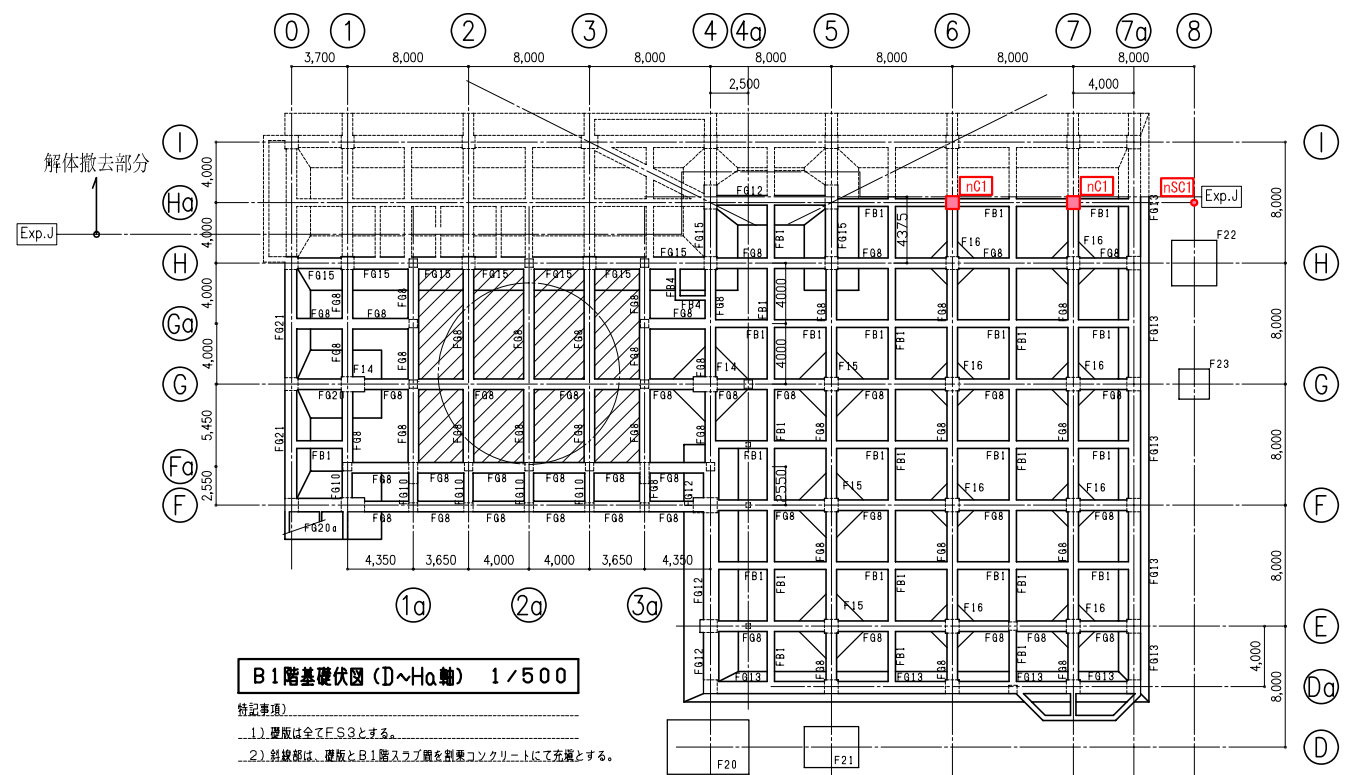
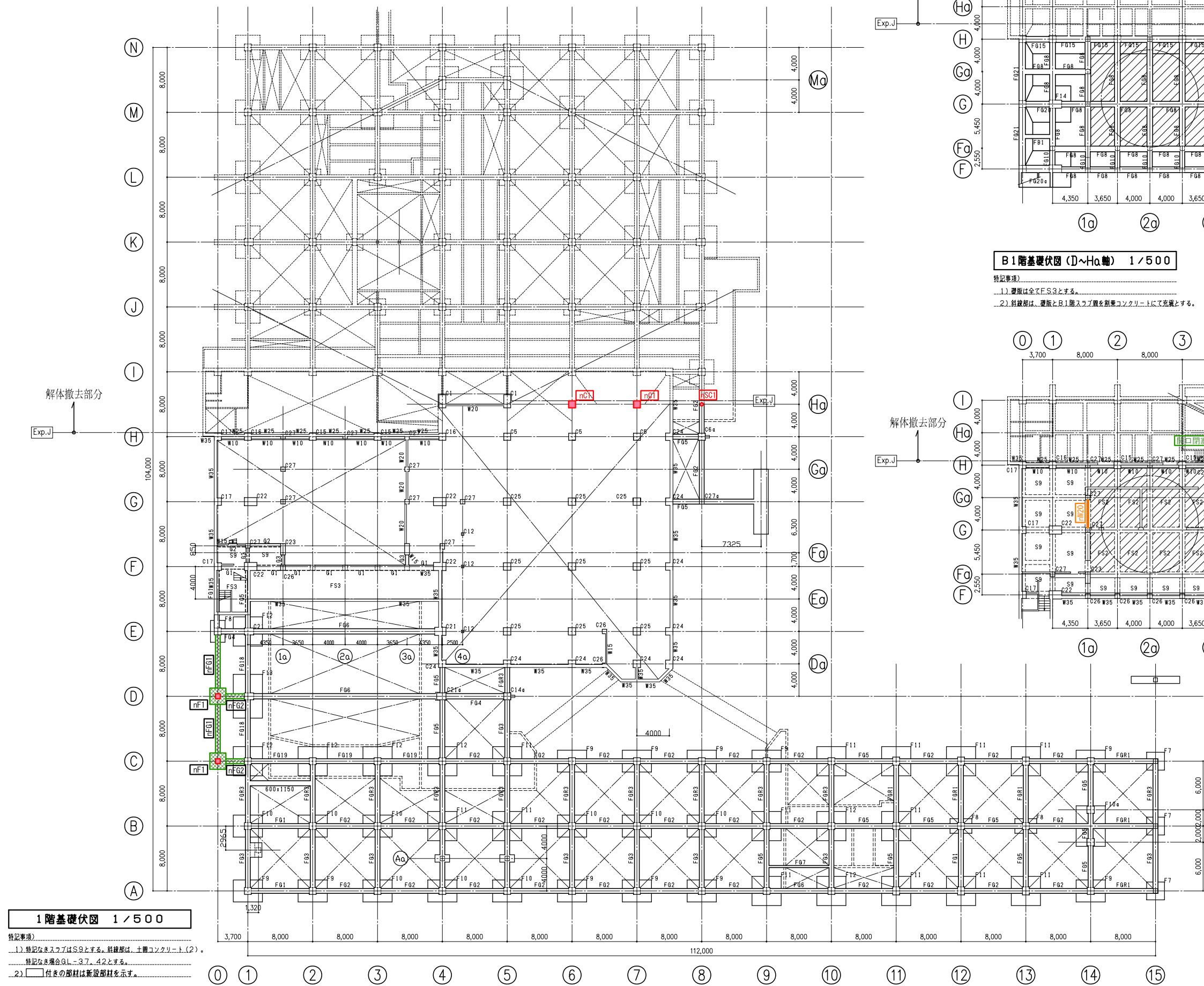
共通事項

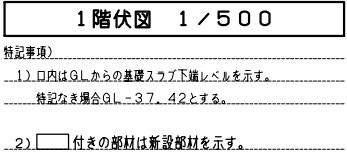
- 特記なき限り下記による。
1. 梁符号、柱符号は上階に倣う。
 2. ブレース符号は、V1とする。
 3. [CW20]は、鋼板コンクリート耐震壁を示す。

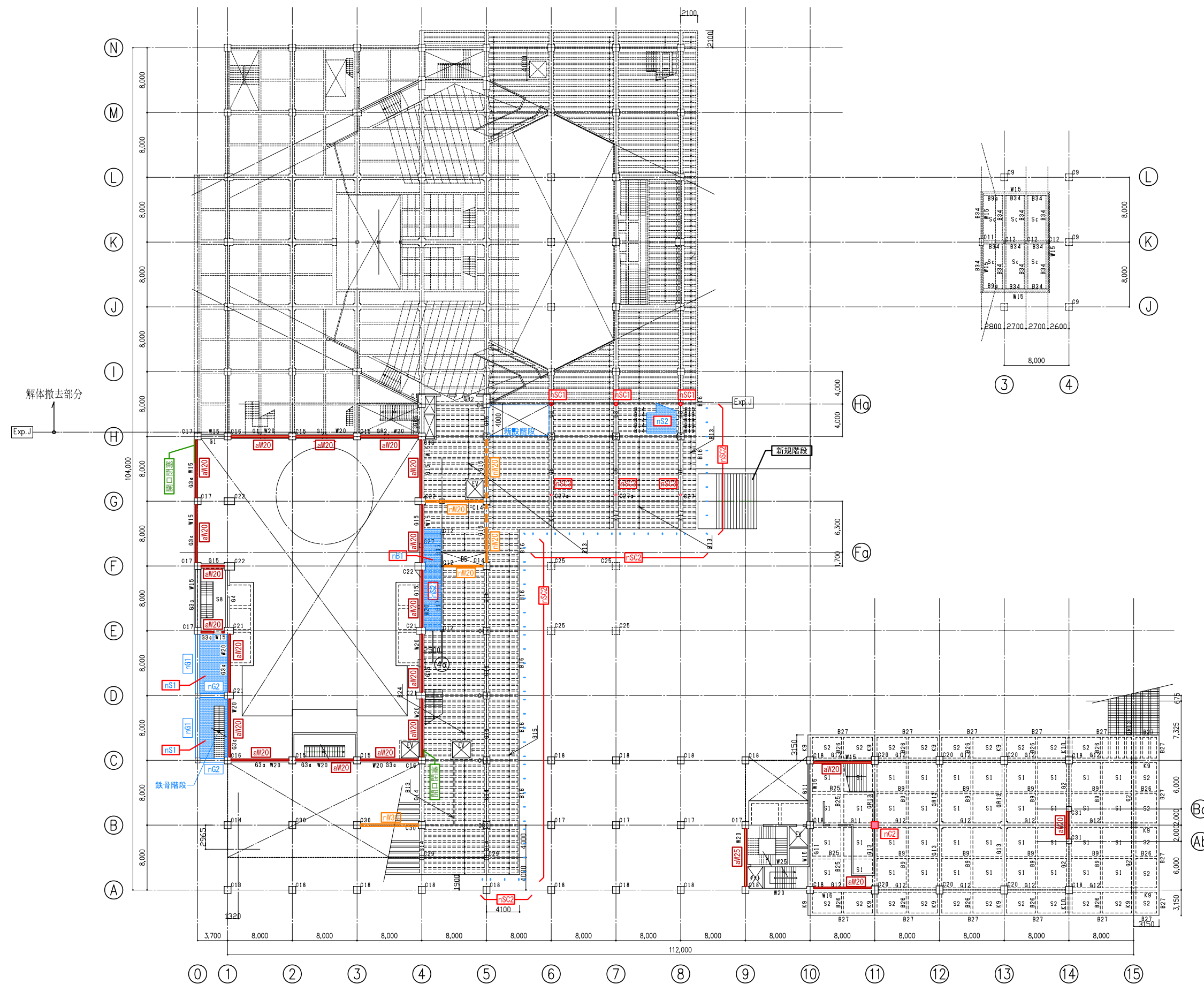


共通事項

特記なき限り下記による。
1. 梁符号、柱符号は上階に倣う。





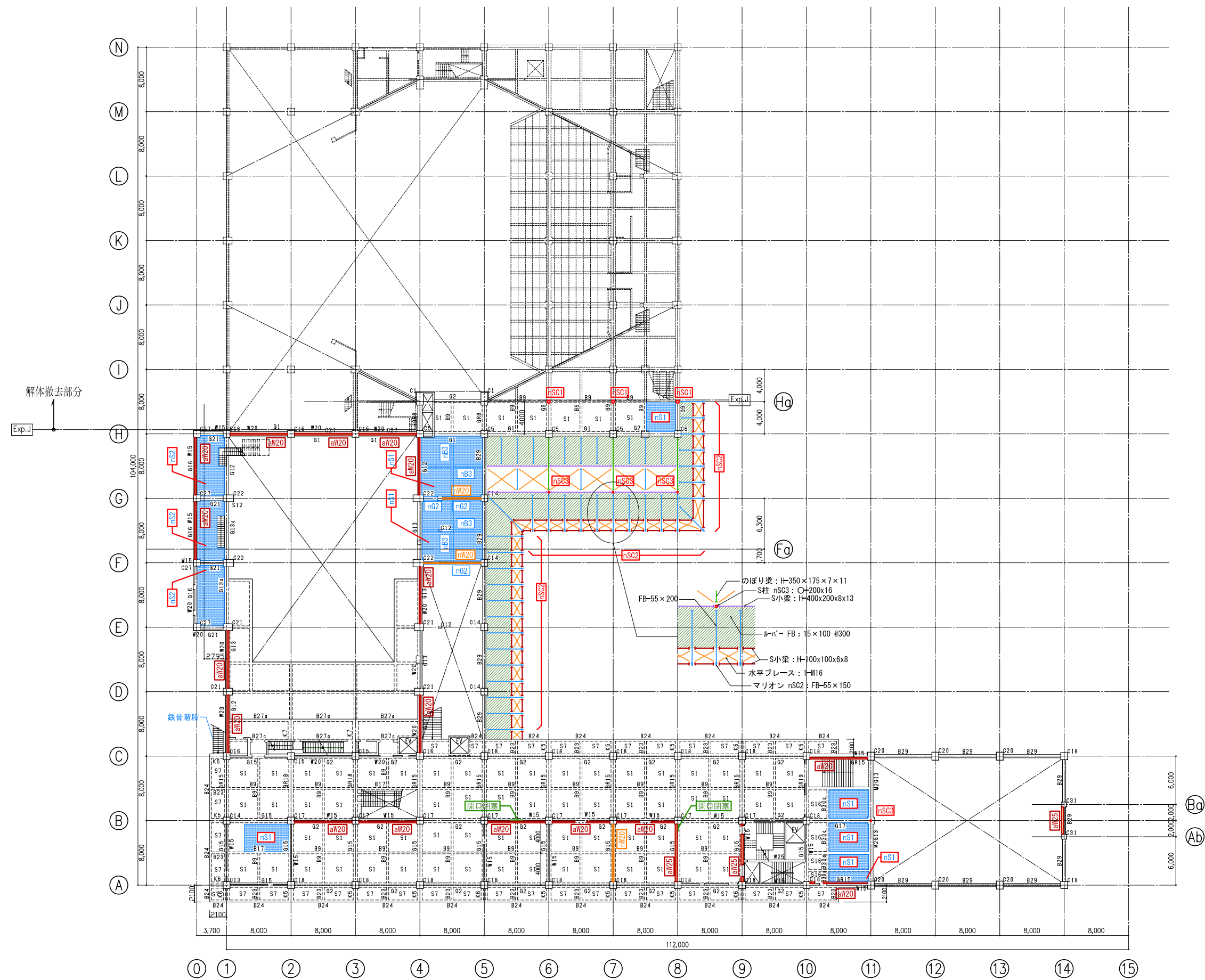


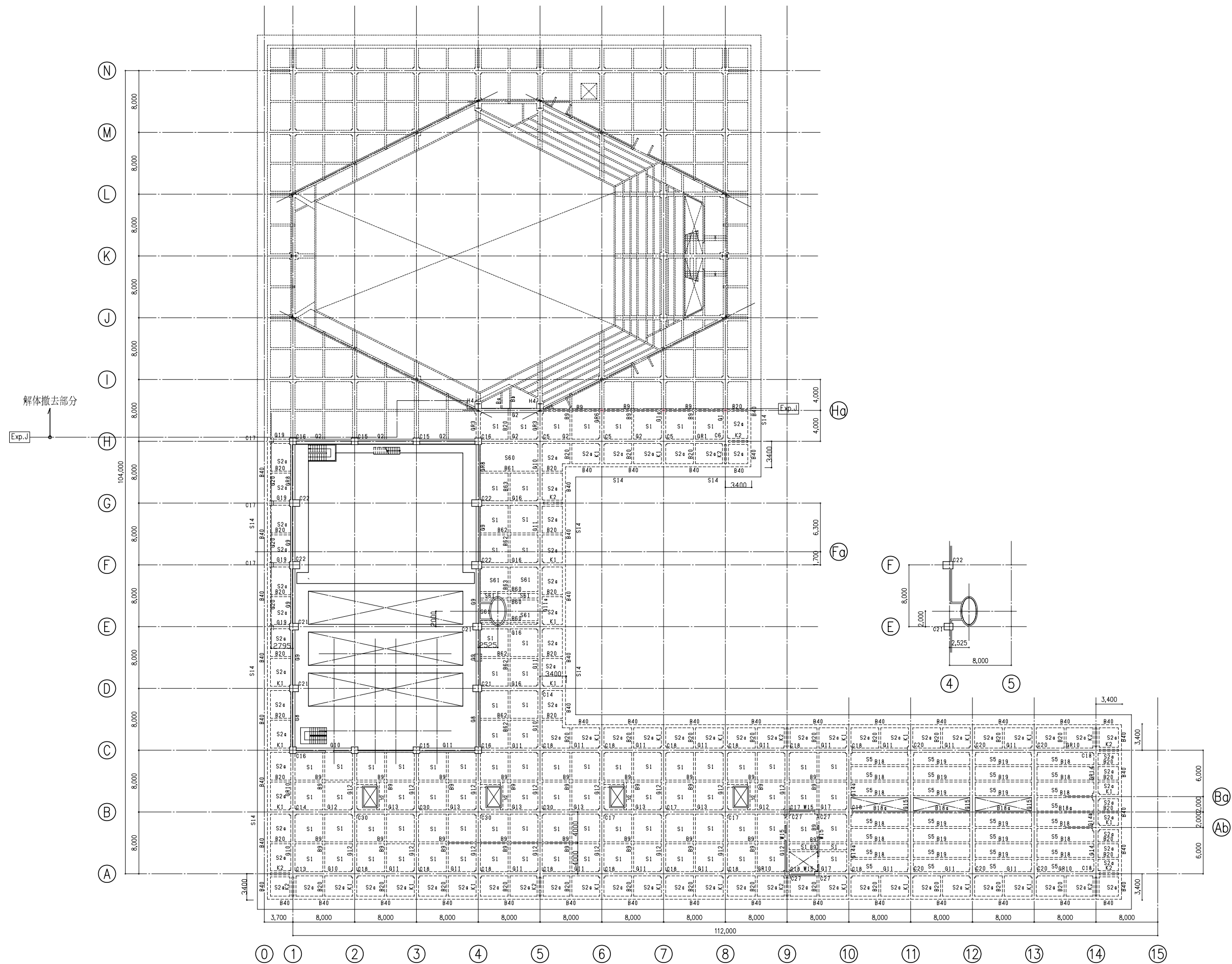
2階伏図 1/200

特記事項)

1) 口内はGLからの基礎スラブ下掘レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。

2) □付きの部材は新設部材を示す。





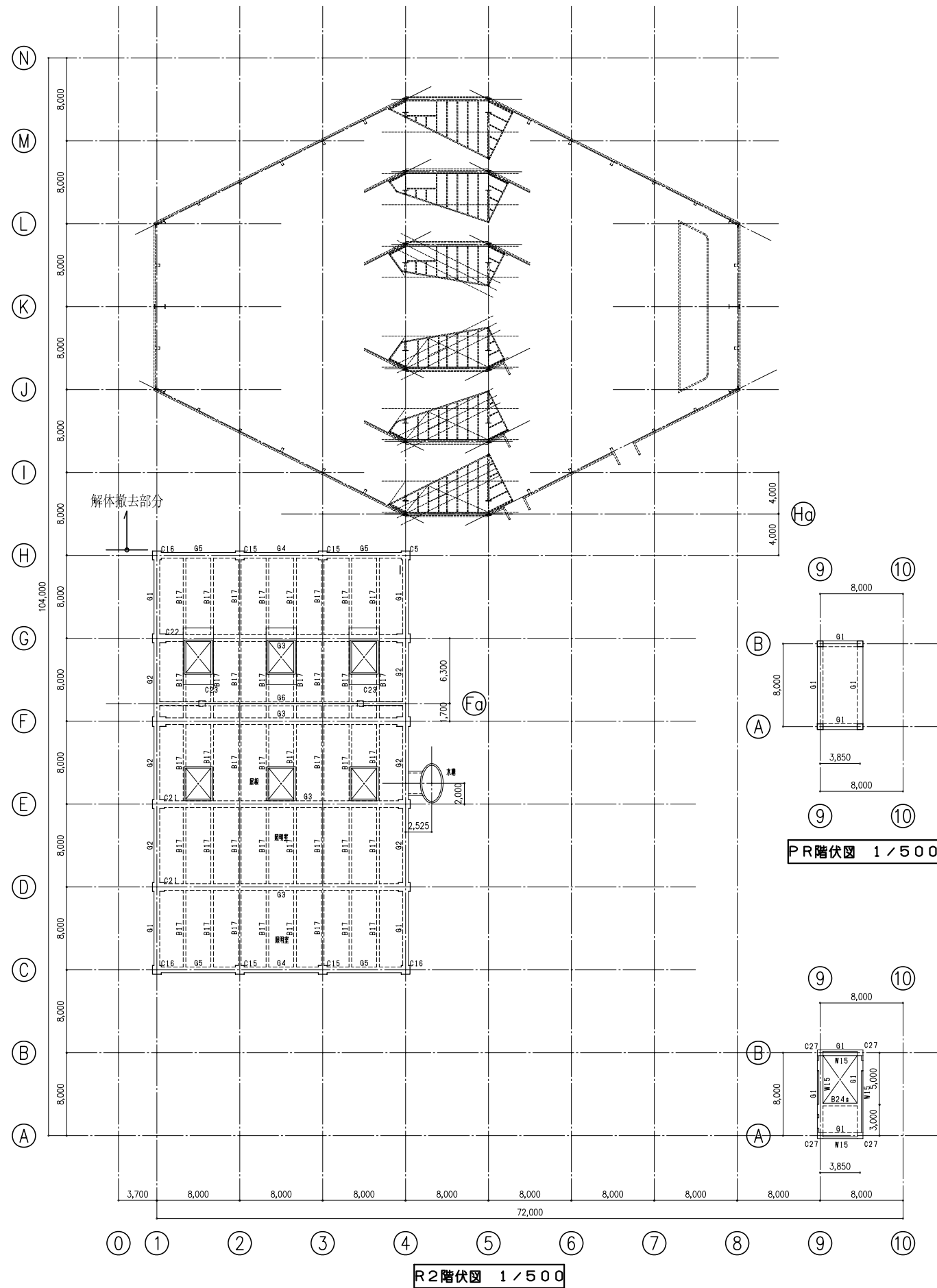
R1階伏図 1/500

特記事項

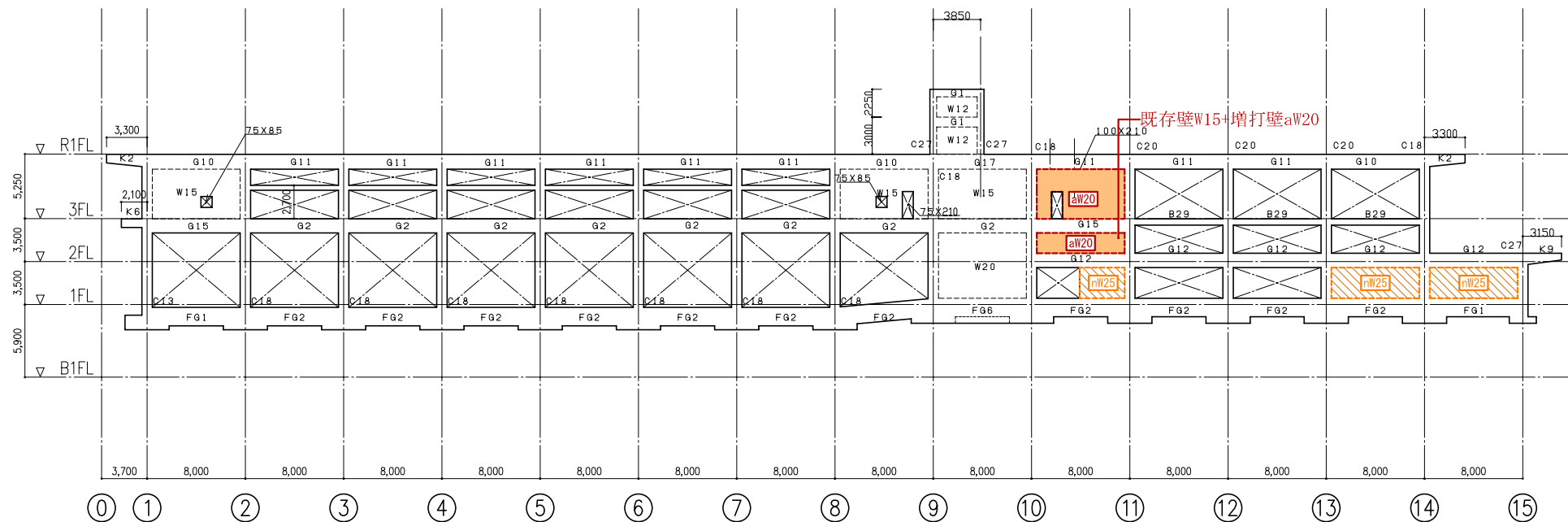
1) 口内はGLからの基礎スラブ下階レベルを示す。

特記なき場合GL-37.42とする。

※ 本図面には補強箇所なし。

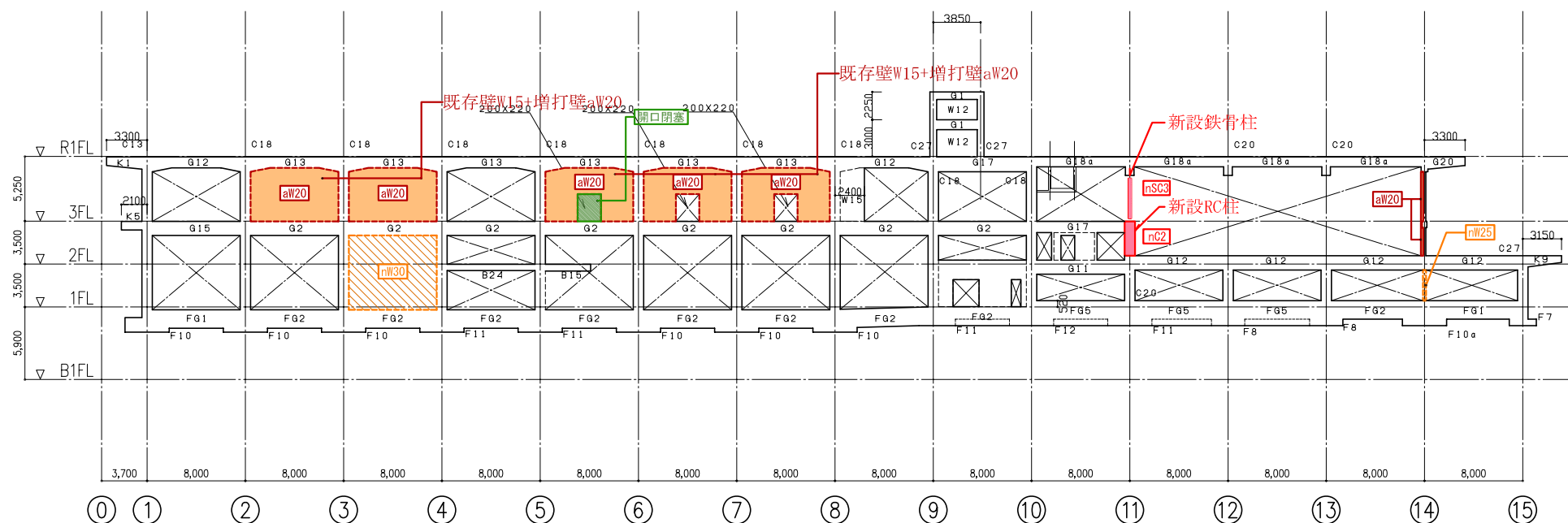


※ 本図面には補強箇所なし。



A通り軸組図 1/500

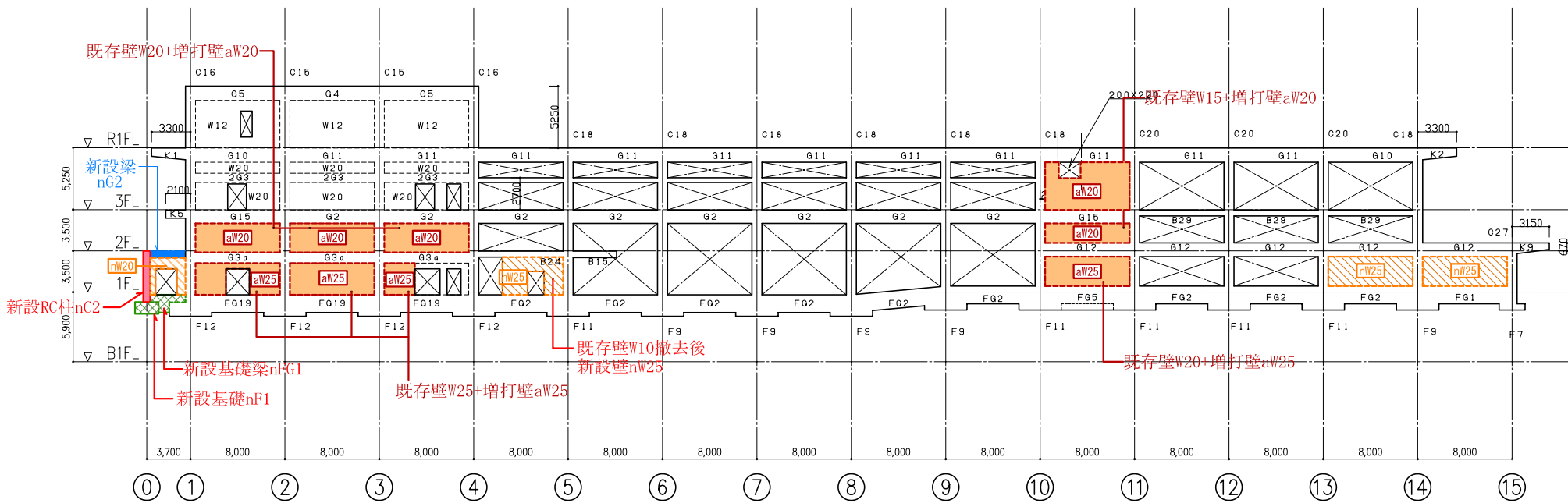
特記事項)
 1) 口内はG.L.からの基礎入ツ下地レベルを示す。
 特記なき場合G.L. - 3.7, -4.2とする。



B通り軸組図 1/500

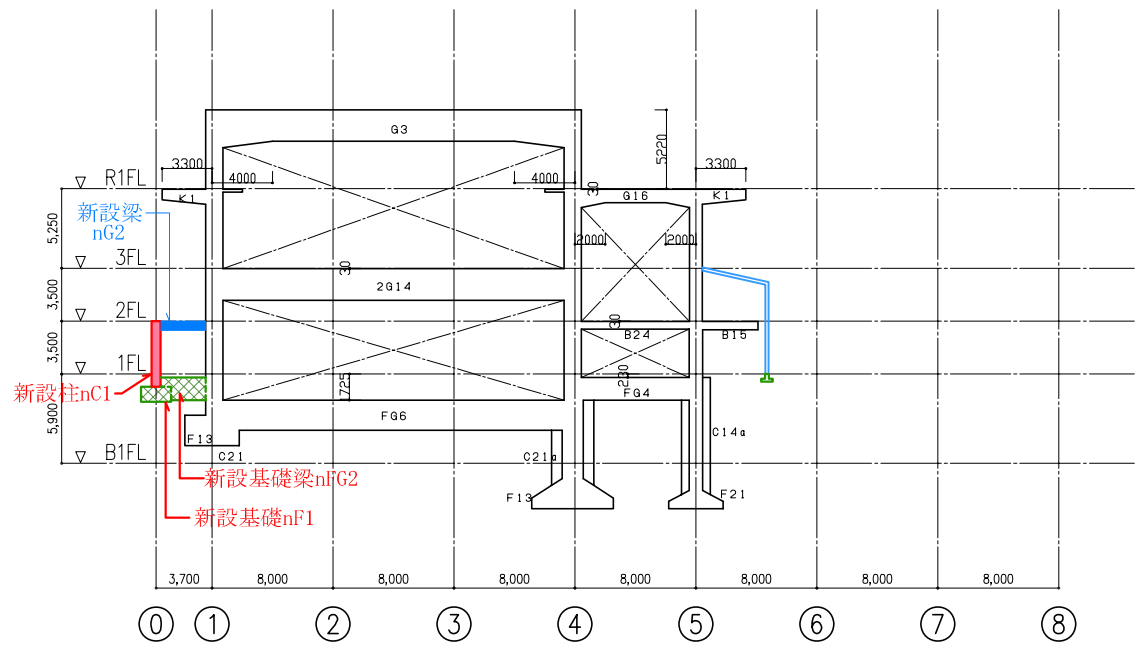
特記事項)
 1) 口内はG.L.からの基礎入ツ下地レベルを示す。
 特記なき場合G.L. - 3.7, -4.2とする。

補強部材凡例	
壁増設補強	
壁増打補強	



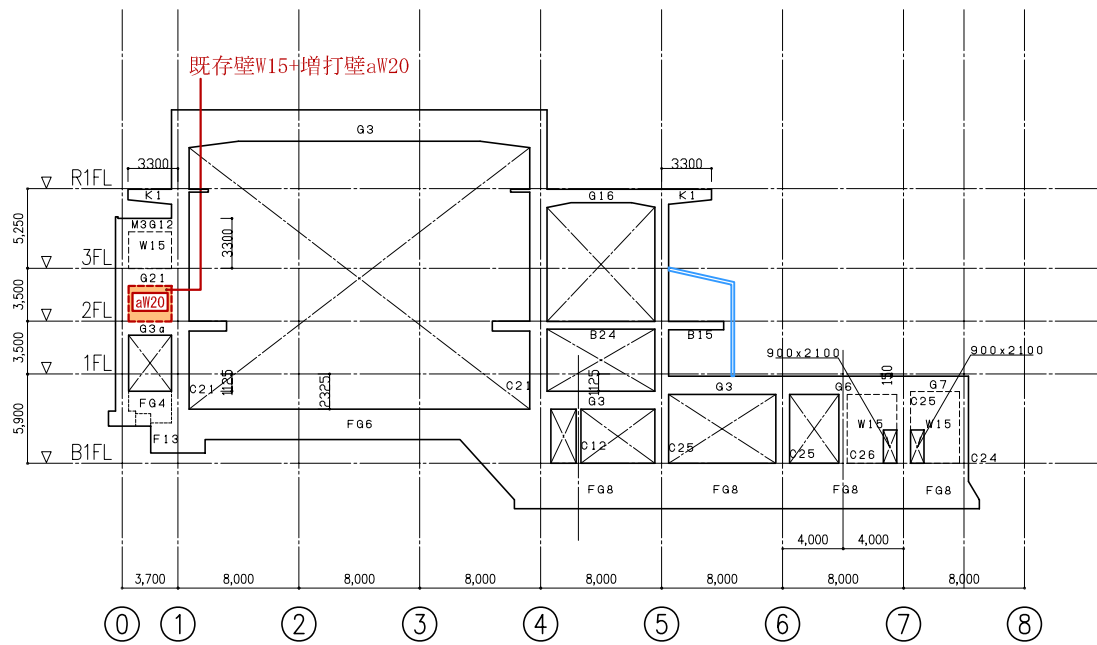
C通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。



D通り軸組図 1/500

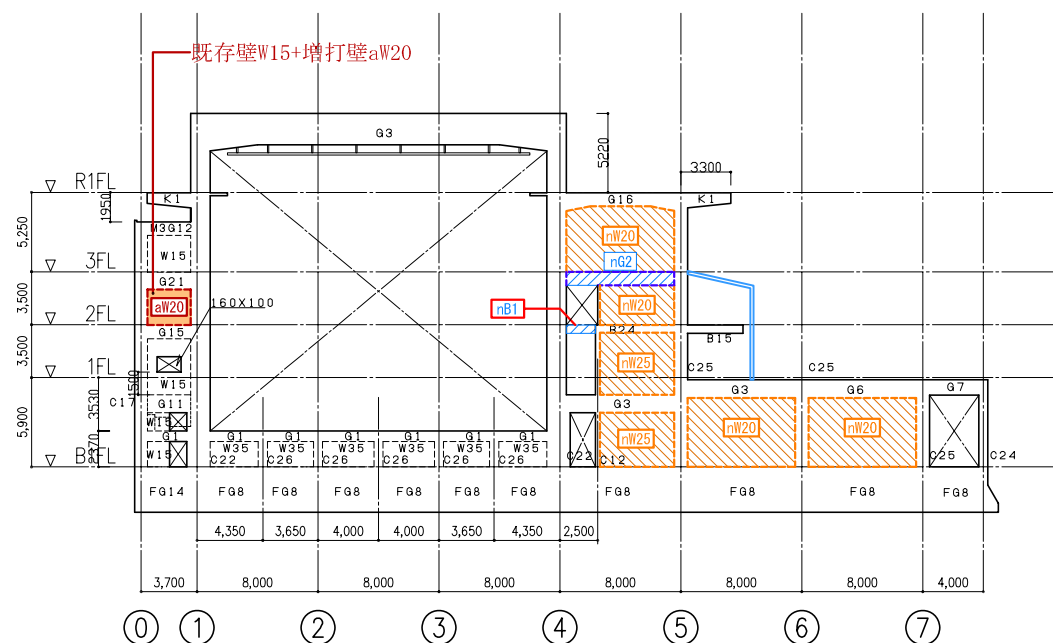
特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。



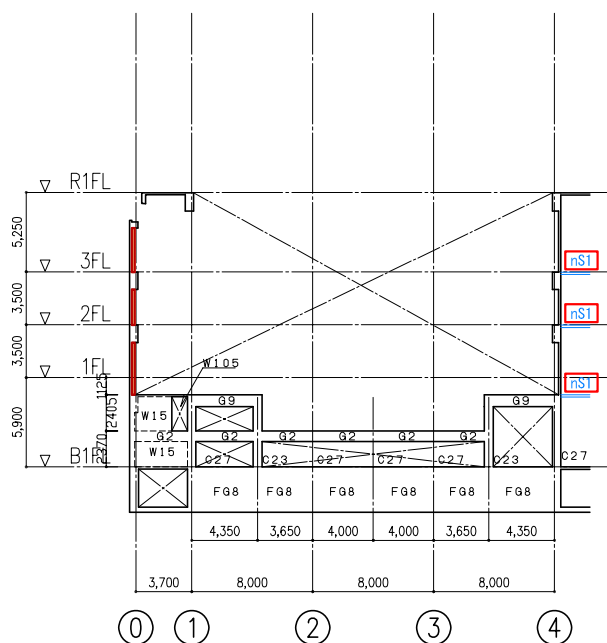
E通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。

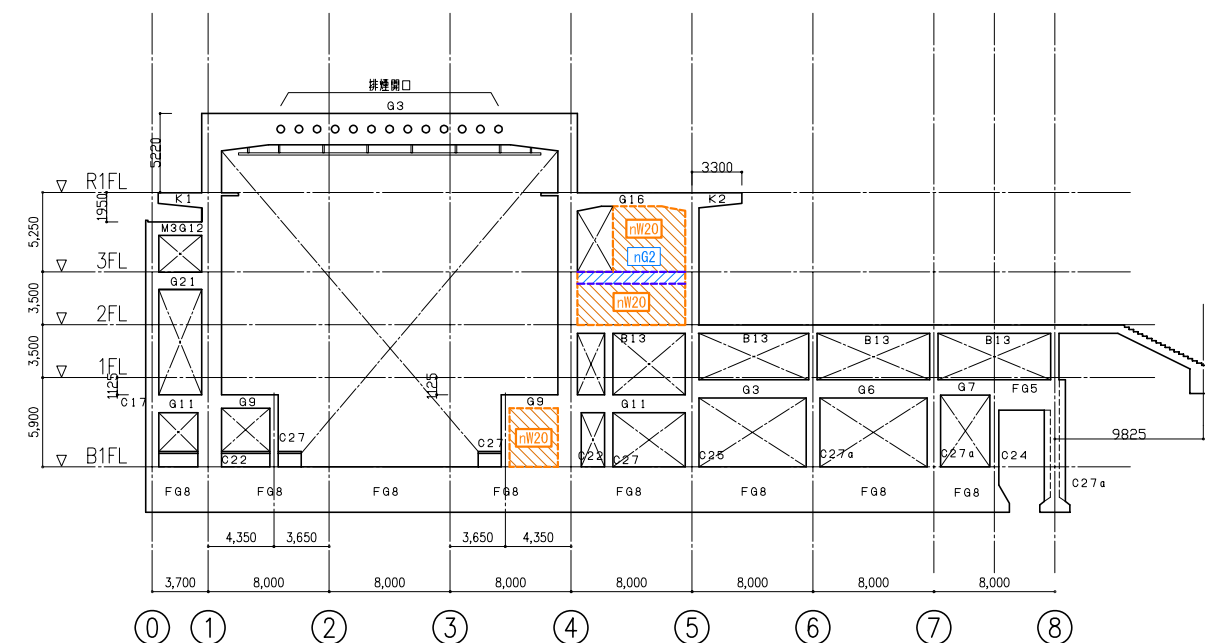
補強部材凡例	
壁増設補強	
壁増打補強	
スラブ新設	



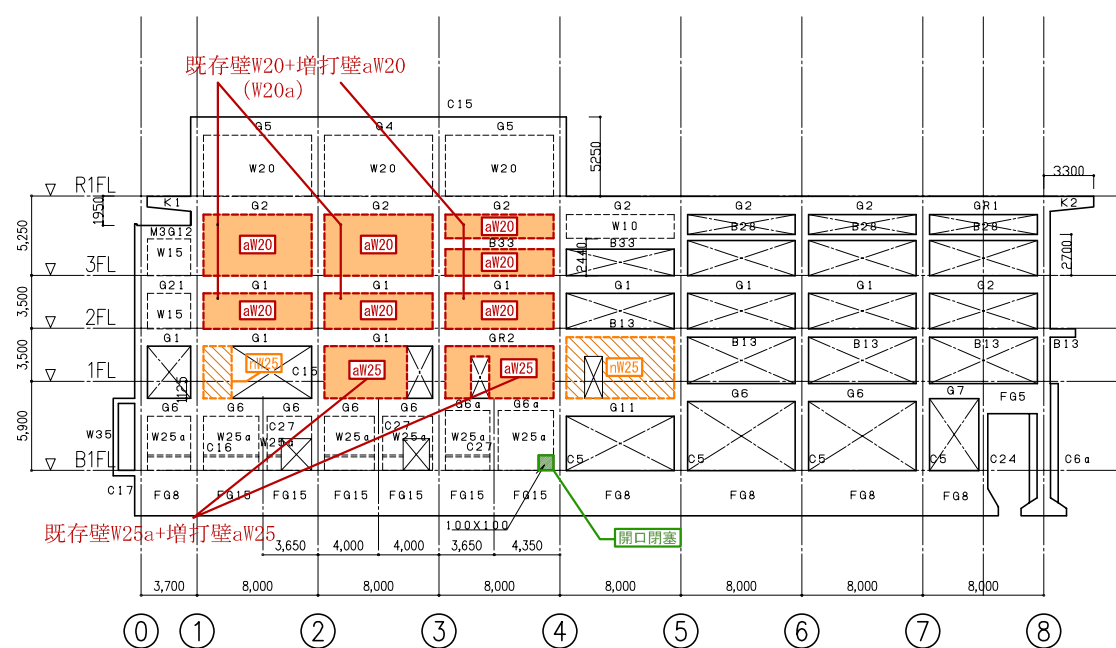
F通り軸組図 1/500
 特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。



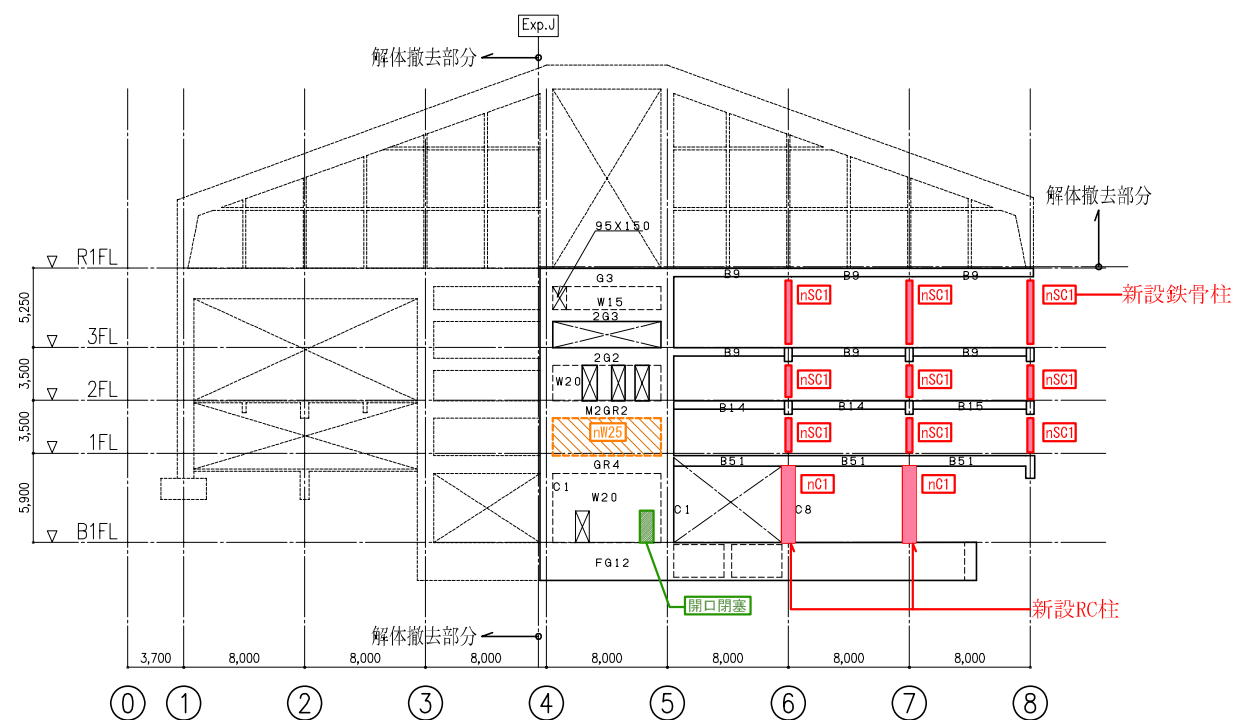
Fa通り軸組図 1/500
 特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。



G通り軸組図 1/500
 特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。

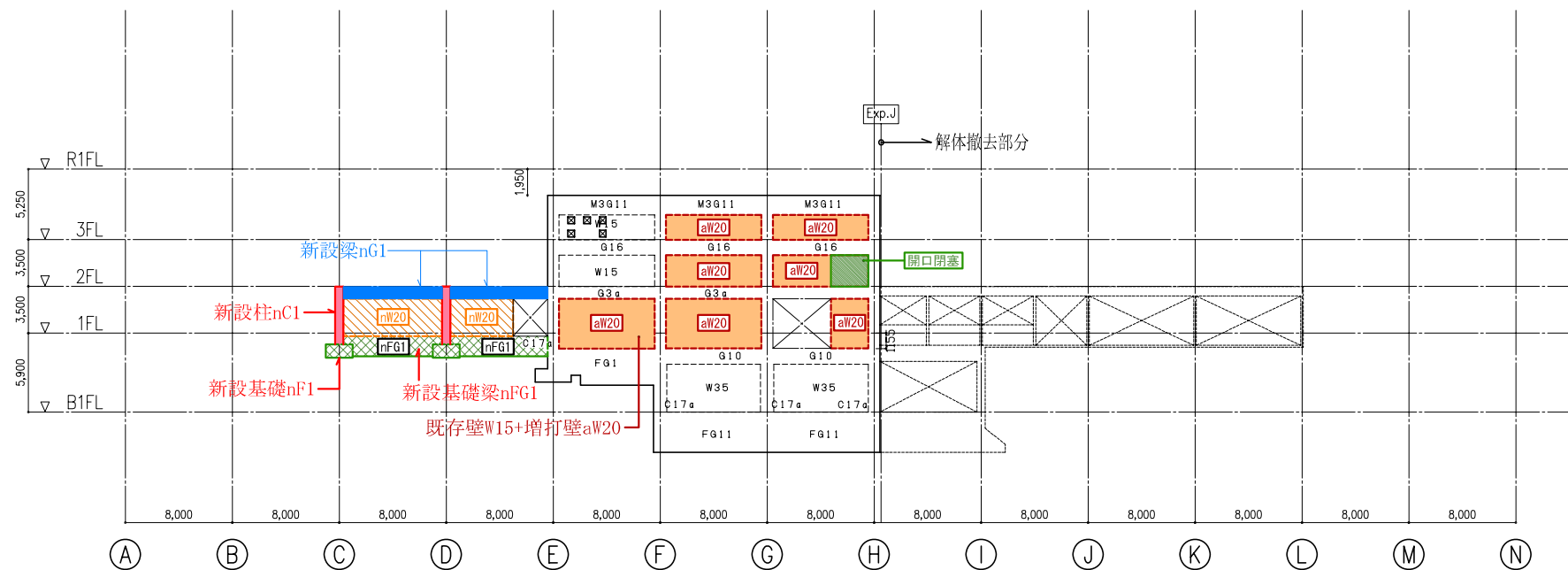


H通り軸組図 1/500
 特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。



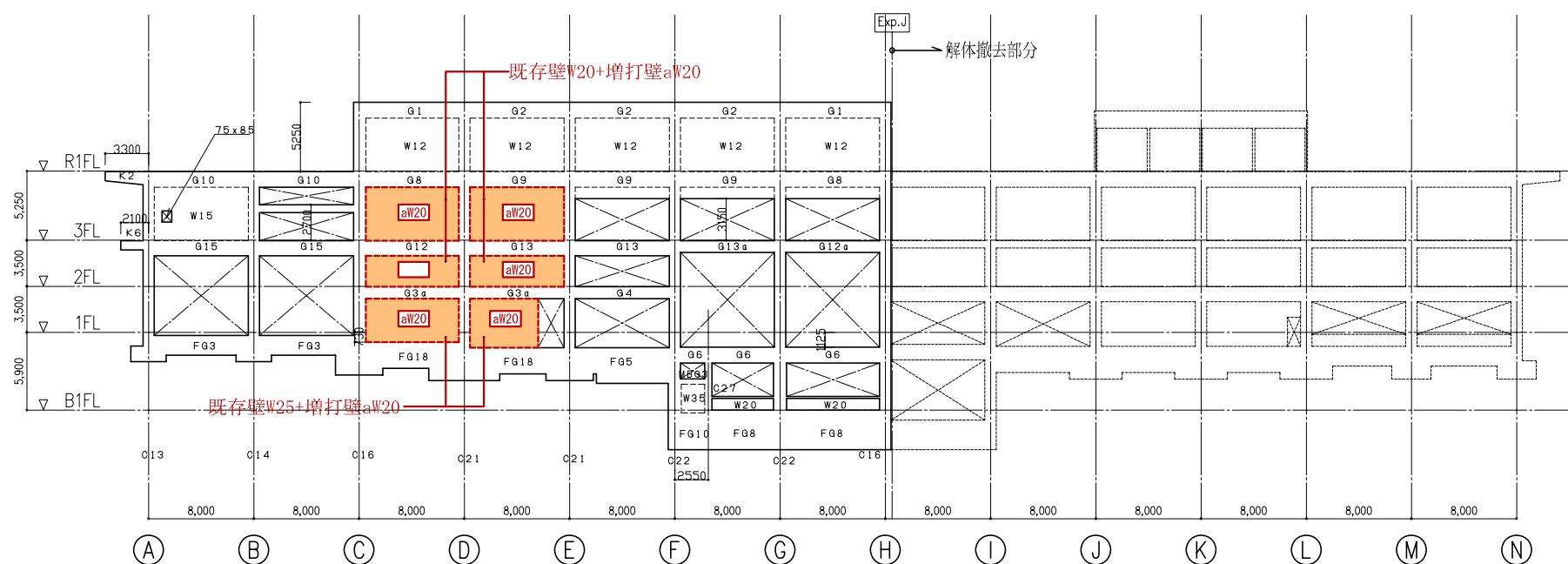
Ha通り軸組図 1/500
 特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。

補強部材凡例	
壁増設補強	NWOO
壁増打補強	aWOO
梁新設	nGOO nBOO
スラブ新設	nSOO



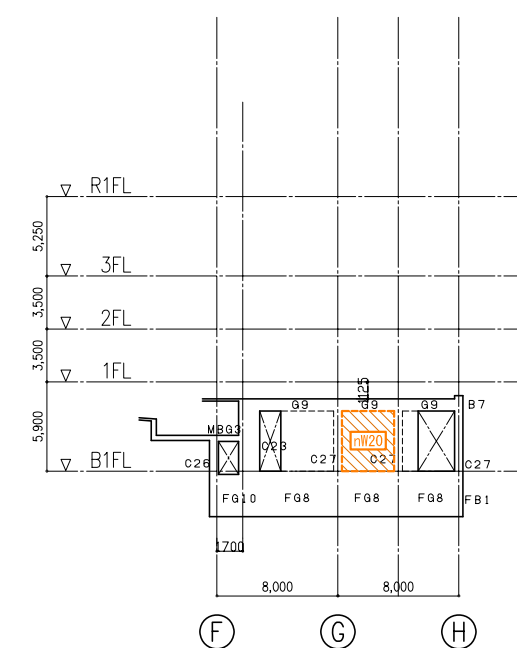
0通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、42とする。



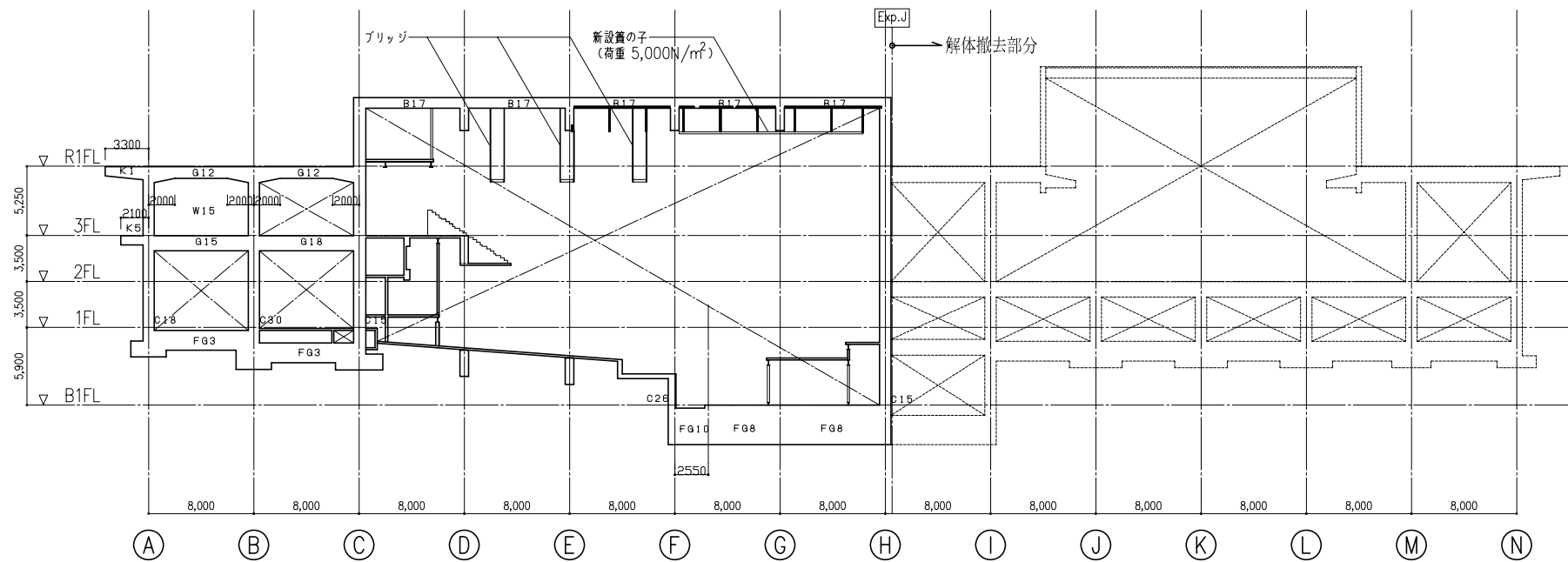
1通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、42とする。



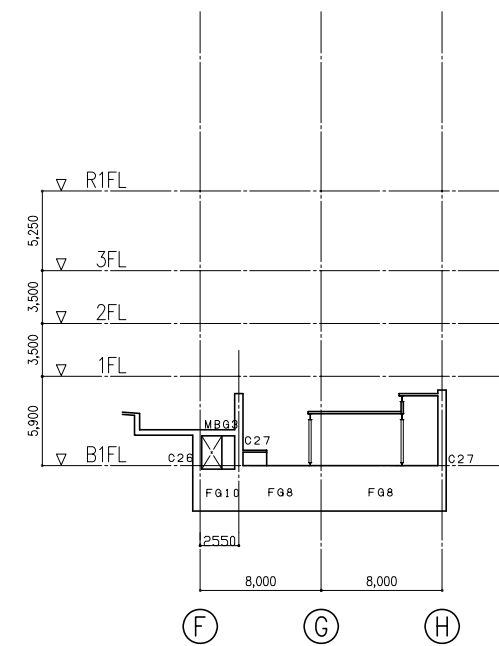
1α通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、42とする。



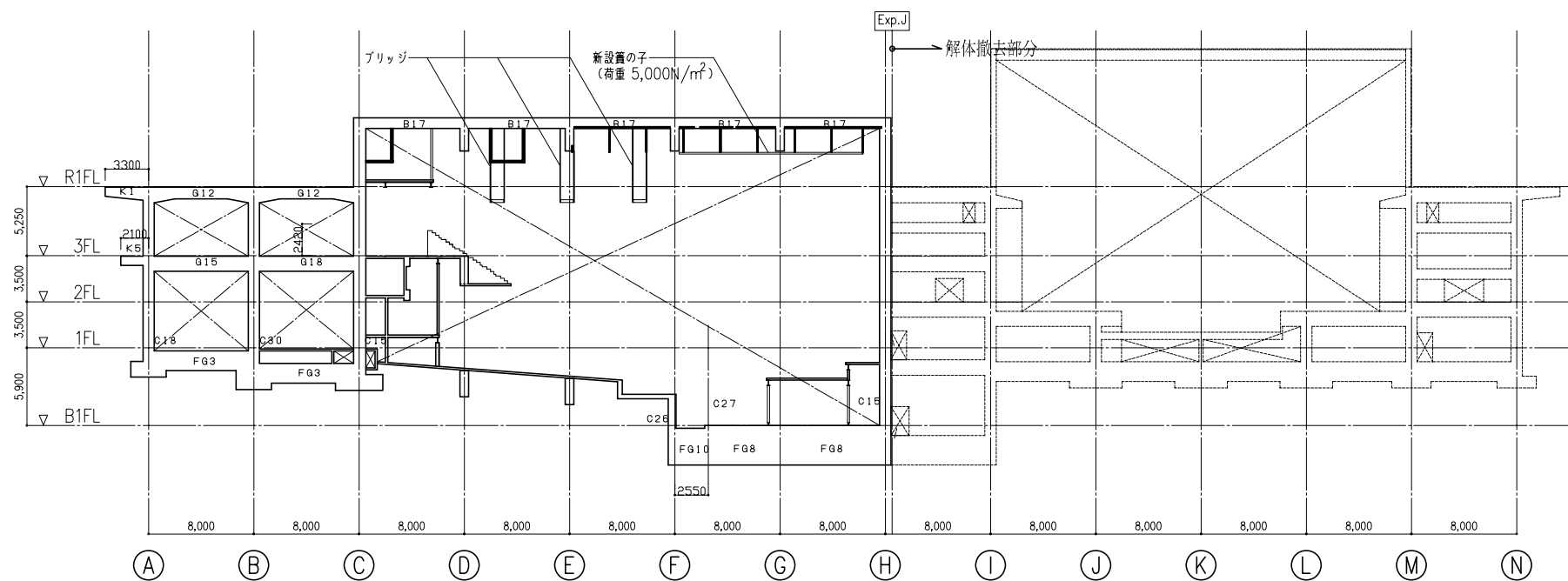
2通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、42とする。



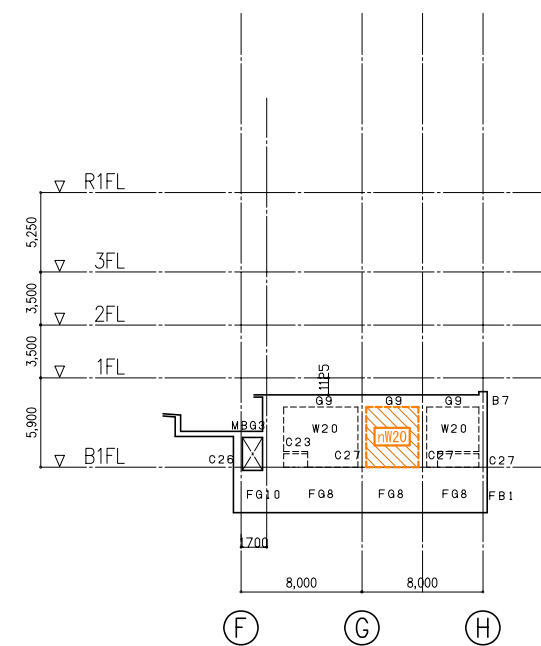
2α通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、42とする。



3通り軸組図 1/500

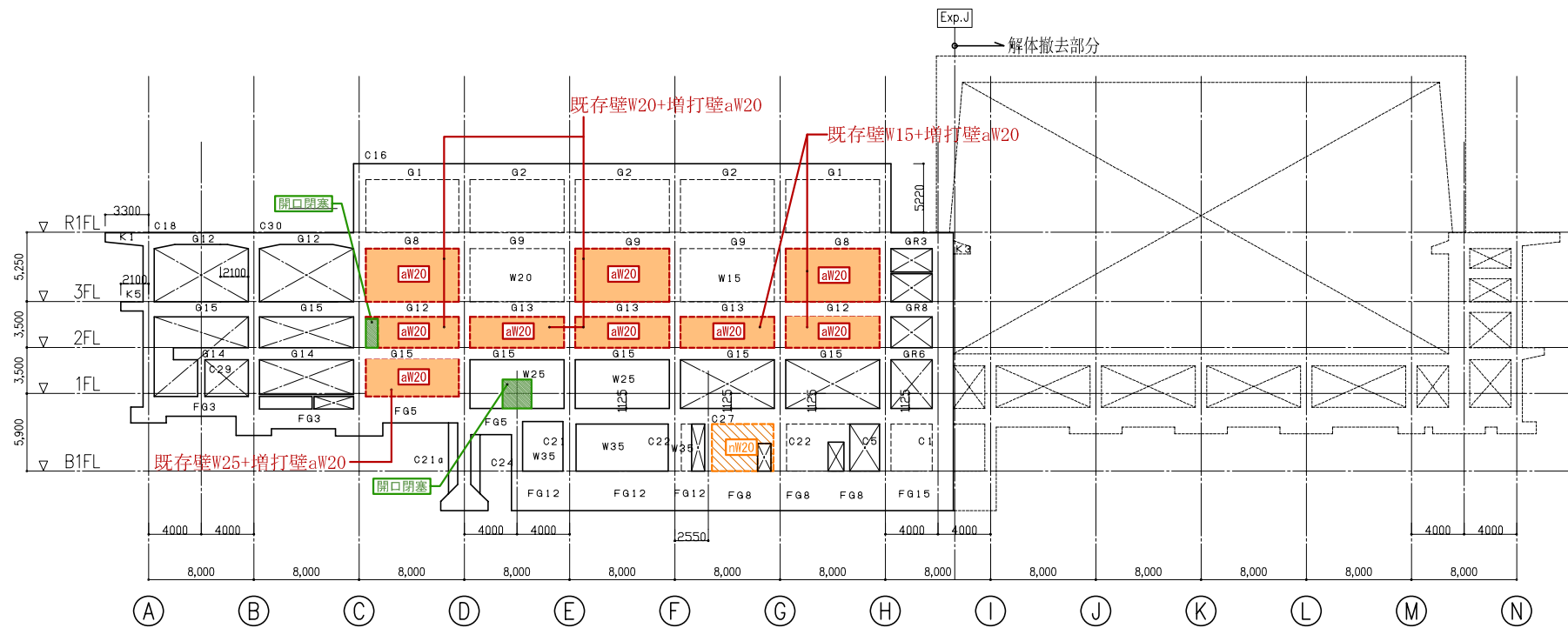
特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、42とする。



3α通り軸組図 1/500

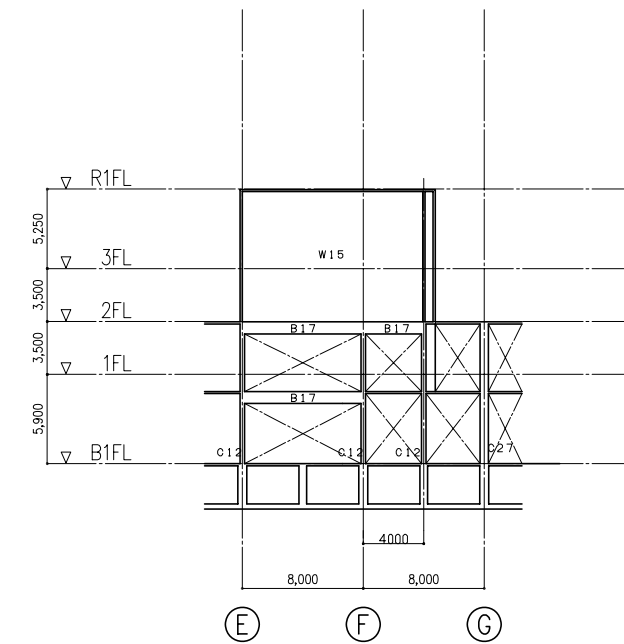
特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、42とする。

補強部材凡例	
壁増設補強	



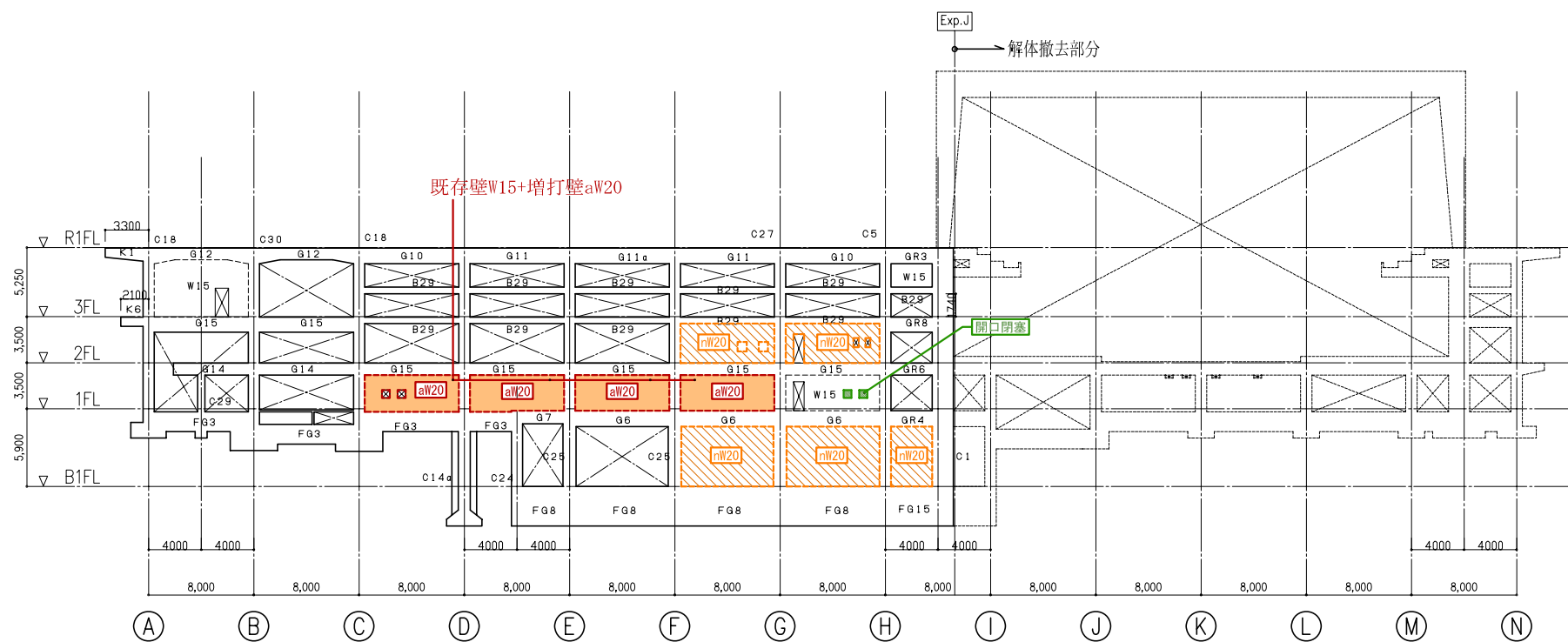
4通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。



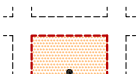
4α通り軸組図 1/500

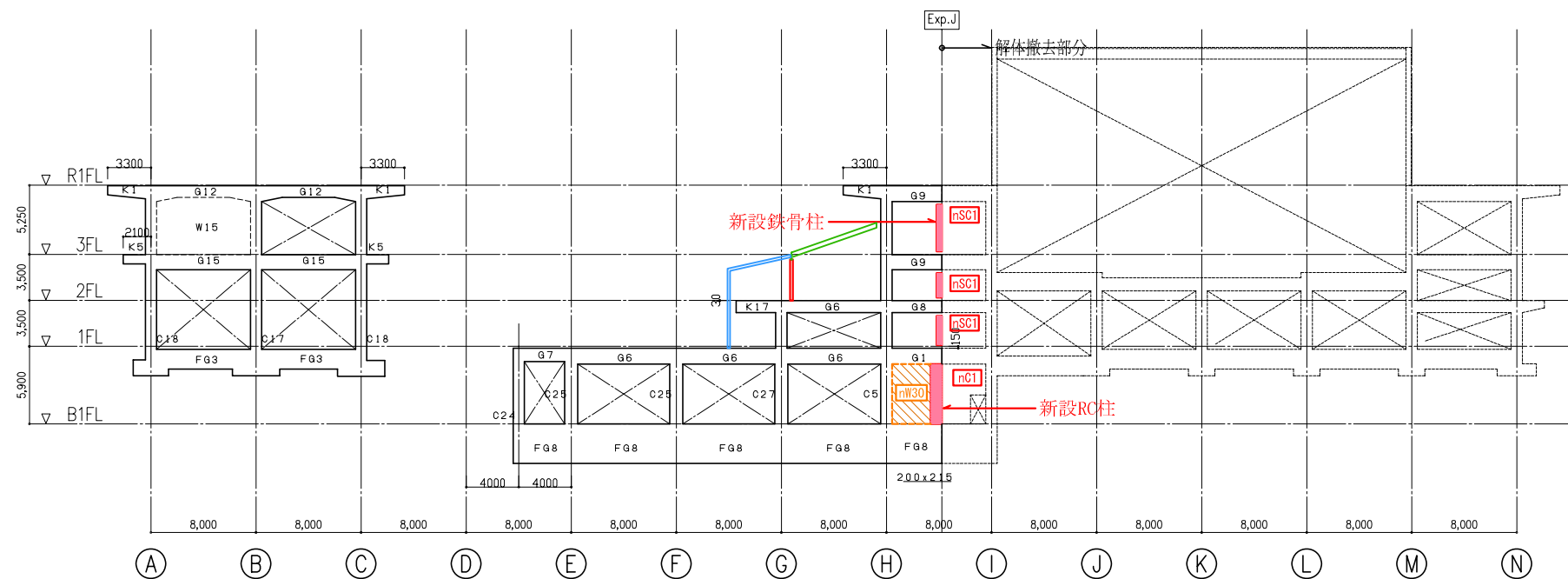
特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。



5通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下地レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7、4.2とする。

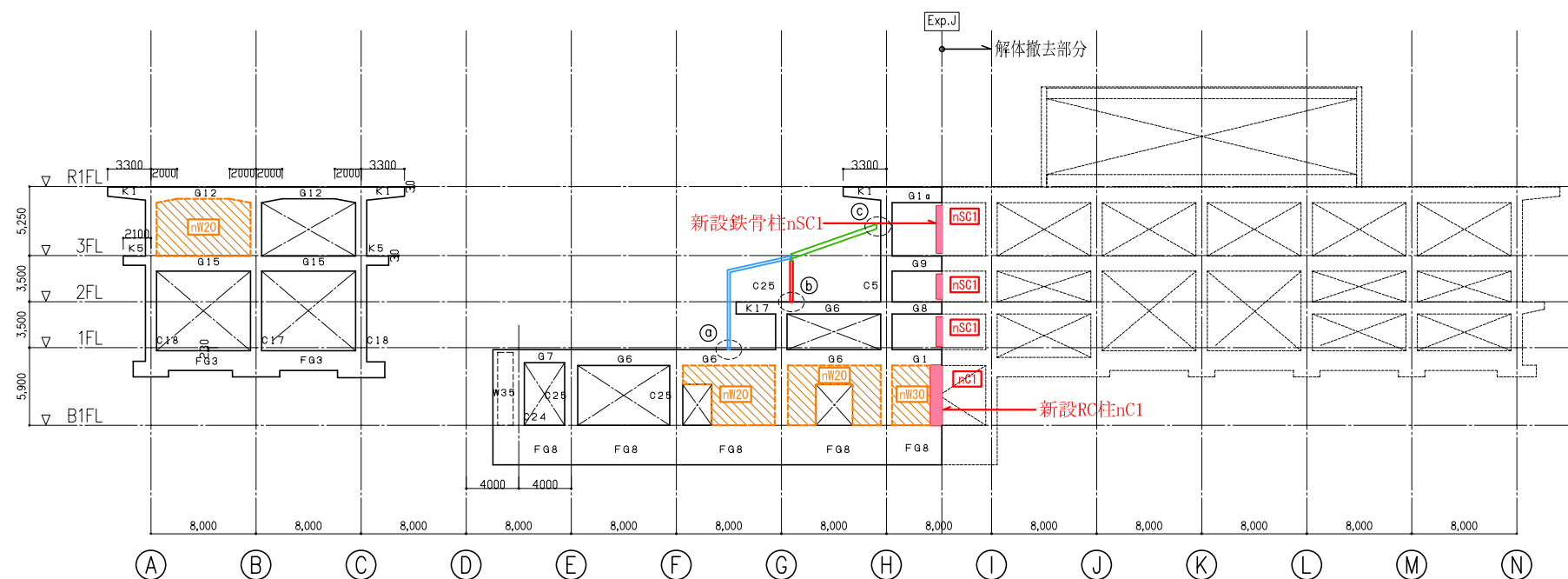
補強部材凡例	
壁増設補強	 NWoo
壁増打補強	 aWoo



6通り軸組図 1/500

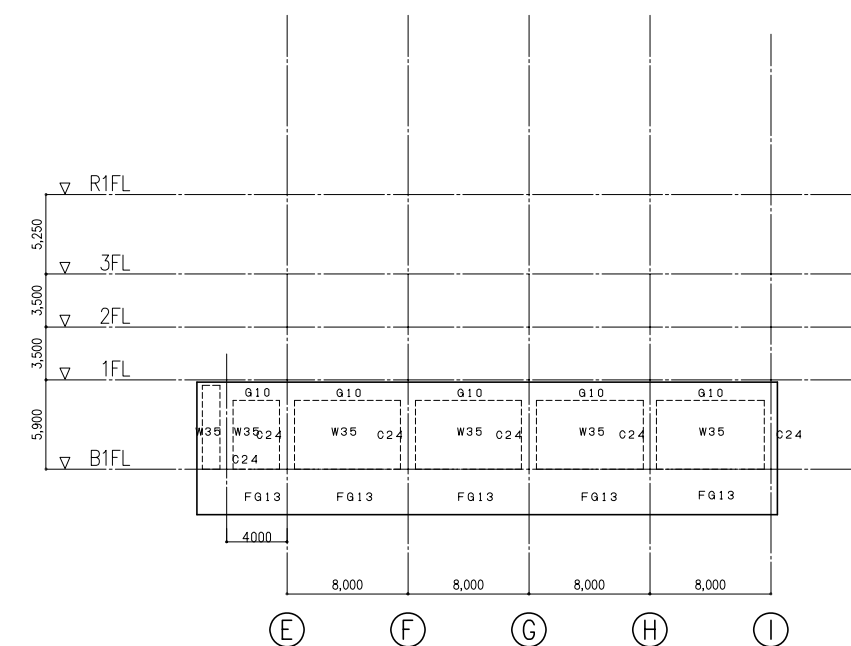
特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7.42とする。

補強部材凡例	
壁増設補強	



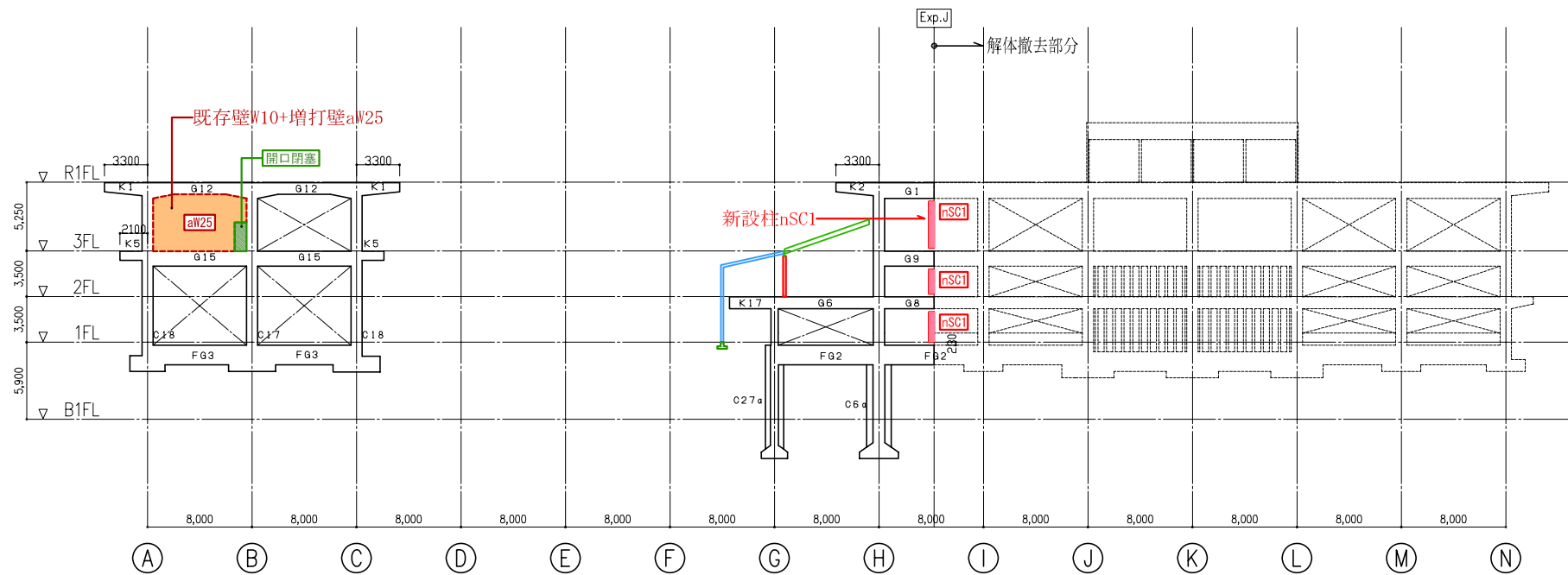
7通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7.42とする。



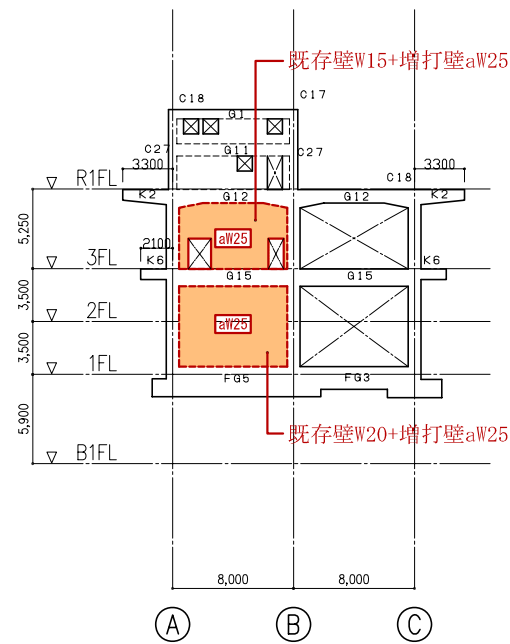
7a通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はGLからの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合GL-3.7.42とする。



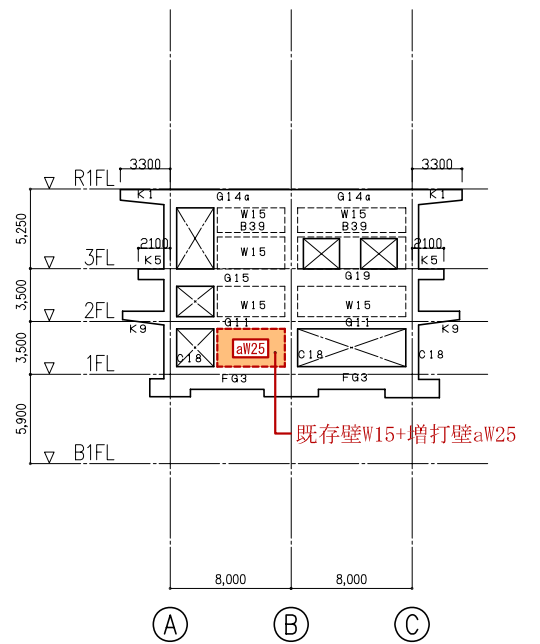
8通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はG1からの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合G1-3.7、4.2とする。



9通り軸組図 1/500

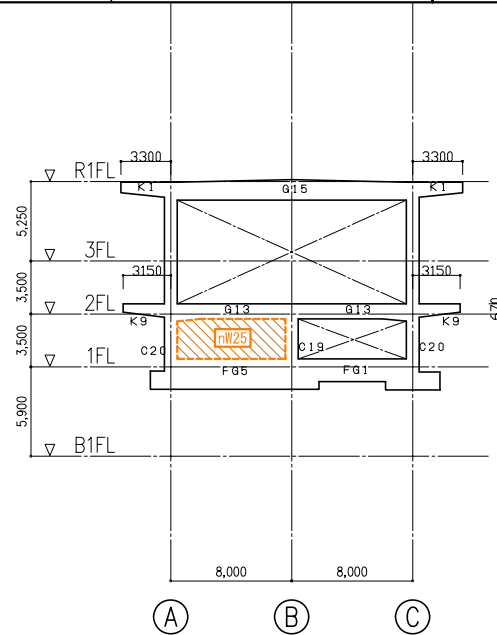
特記事項)
 1) 口内はG1からの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合G1-3.7、4.2とする。



10通り軸組図 1/500

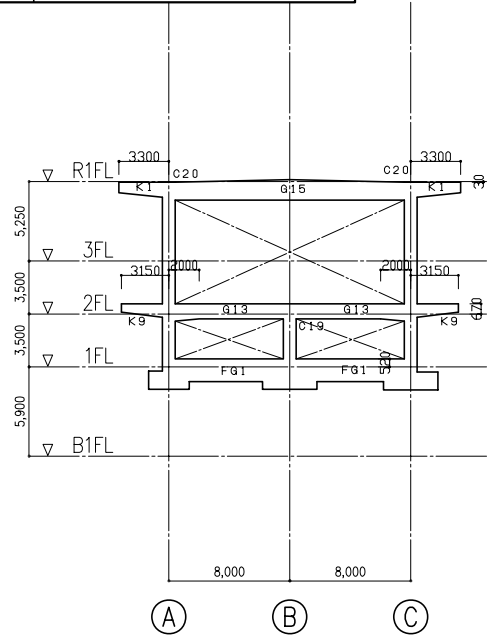
特記事項)
 1) 口内はG1からの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合G1-3.7、4.2とする。

補強部材凡例			
壁増設補強		壁増打補強	
	NW00		aW00



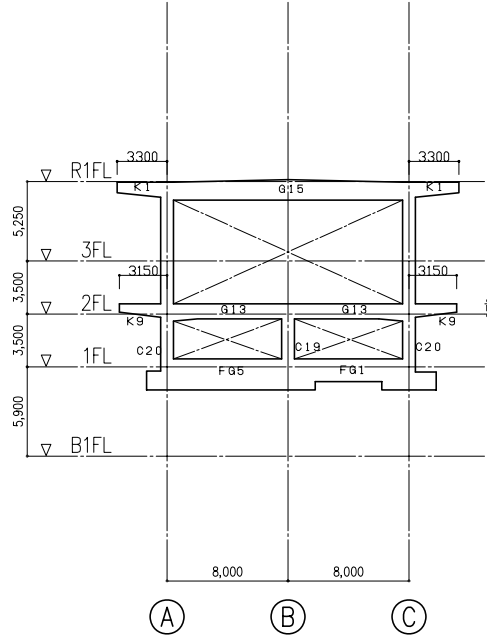
11通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はG1からの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合G1-3.7、4.2とする。



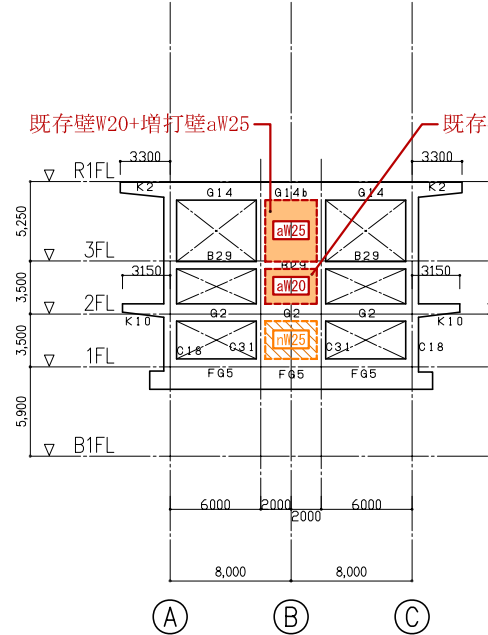
12通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はG1からの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合G1-3.7、4.2とする。



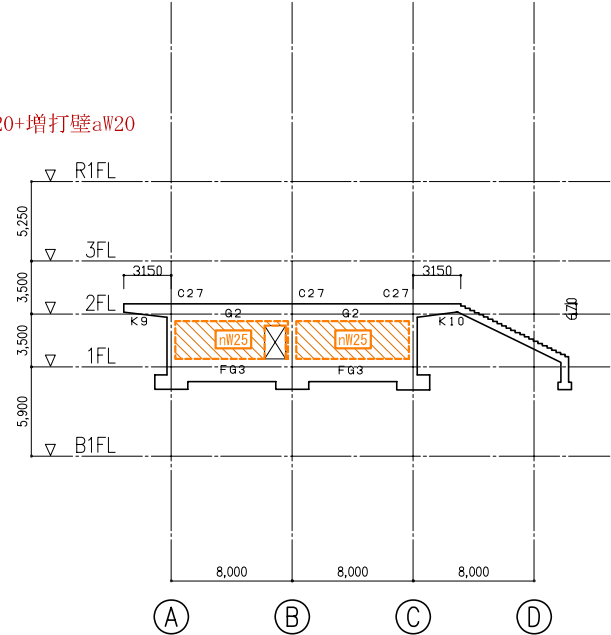
13通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はG1からの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合G1-3.7、4.2とする。



14通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はG1からの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合G1-3.7、4.2とする。



15通り軸組図 1/500

特記事項)
 1) 口内はG1からの基礎スラブ下端レベルを示す。
 特記なき場合G1-3.7、4.2とする。

■ 新設壁			
符号	nW20	nW25	nW30
厚さ	200	250	300
縦筋	D13@100D	D13@100D	D13@100D
横筋	D13@100D	D13@100D	D13@100D
幅止筋	D10@600	D10@600	D10@600
あと施工アンカー (接着系)	D16@100W (ナット付)	D16@100W (ナット付)	D16@100W (ナット付)
アンカー埋込深さ	8da以上	8da以上	8da以上
アンカー有効 定着長さ	20da以上	20da以上	20da以上
スパイラル筋	6φ径75@50	6φ径100@50	6φ径120@50
開口補強(縦筋)	2-D13	2-D16	2-D16
開口補強(横筋)	2-D13	2-D16	2-D16
開口補強(斜筋)	2-D13	2-D13	2-D13

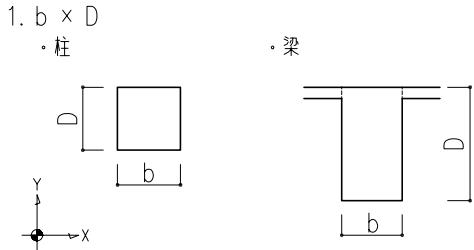
■ 増打壁			
符号	aW20	aW25	
厚さ	200	250	
縦筋	D13@100D	D13@100D	
横筋	D13@100D	D13@100D	
周辺補強筋	2-D16	2-D16	
幅止筋	D10@600	D10@600	
あと施工アンカー(接着系)	D16@100W (ナット付)	D16@100W (ナット付)	
アンカー埋込深さ	8da以上	8da以上	
アンカー有効定着長さ	20da以上	20da以上	
スパイラル筋	6φ径75@50	6φ径100@50	
開口補強(縦筋)	2-D13	2-D16	
開口補強(横筋)	2-D13	2-D16	
開口補強(斜筋)	2-D13	2-D13	

■ 新設床スラブ		
符号	nS1	nS2
厚さ	150	100
上端筋	D13@200	D10@200S
下端筋	D13@200	
あと施工アンカー(接着系)	D13@100S (ナット付)	D13@100S (ナット付)
既存梁接合部主筋		
アンカー埋込深さ	8da以上	8da以上
アンカー有効定着長さ	40da以上	40da以上
備考	既存スラブ小 口接合部は既 存スラブ鉄筋を ハツリ出し 10d(片面)フレ ア溶接	nS2はジョイスト スラブ、既存ス ラブ小口接合部は 既存スラブ鉄筋 をハツリ出し 10d(片面)フレ ア溶接

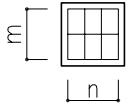
■ 新設耐圧版	
符号	nFS1
厚さ	200
上端筋	D13@150
下端筋	D13@150
あと施工アンカー (接着系)	D16@100S (ナット付)
アンカー埋込深さ	8da以上
アンカー有効定着長さ	40da以上

■ 新設基礎梁	
符号	nFG1
B×D	600×1500
上端筋	7-D25
下端筋	7-D25
STP	2-D13@200
腹筋	4-D13
あと施工アンカー(接着系)	14-D25
既存躯体接合部主筋	
アンカー埋込深さ	13da以上
アンカー有効定着長さ	40da以上

共通事項	
コンクリート強度	Fc= 21N/mm2
無収縮モルタル	Fm= 30N/mm2
鉄筋	SD295A (D16以下) SD345 (D19～D25)
スパイラル筋	SR235



2. 柱帯筋 表示方法
m-n-D13@100



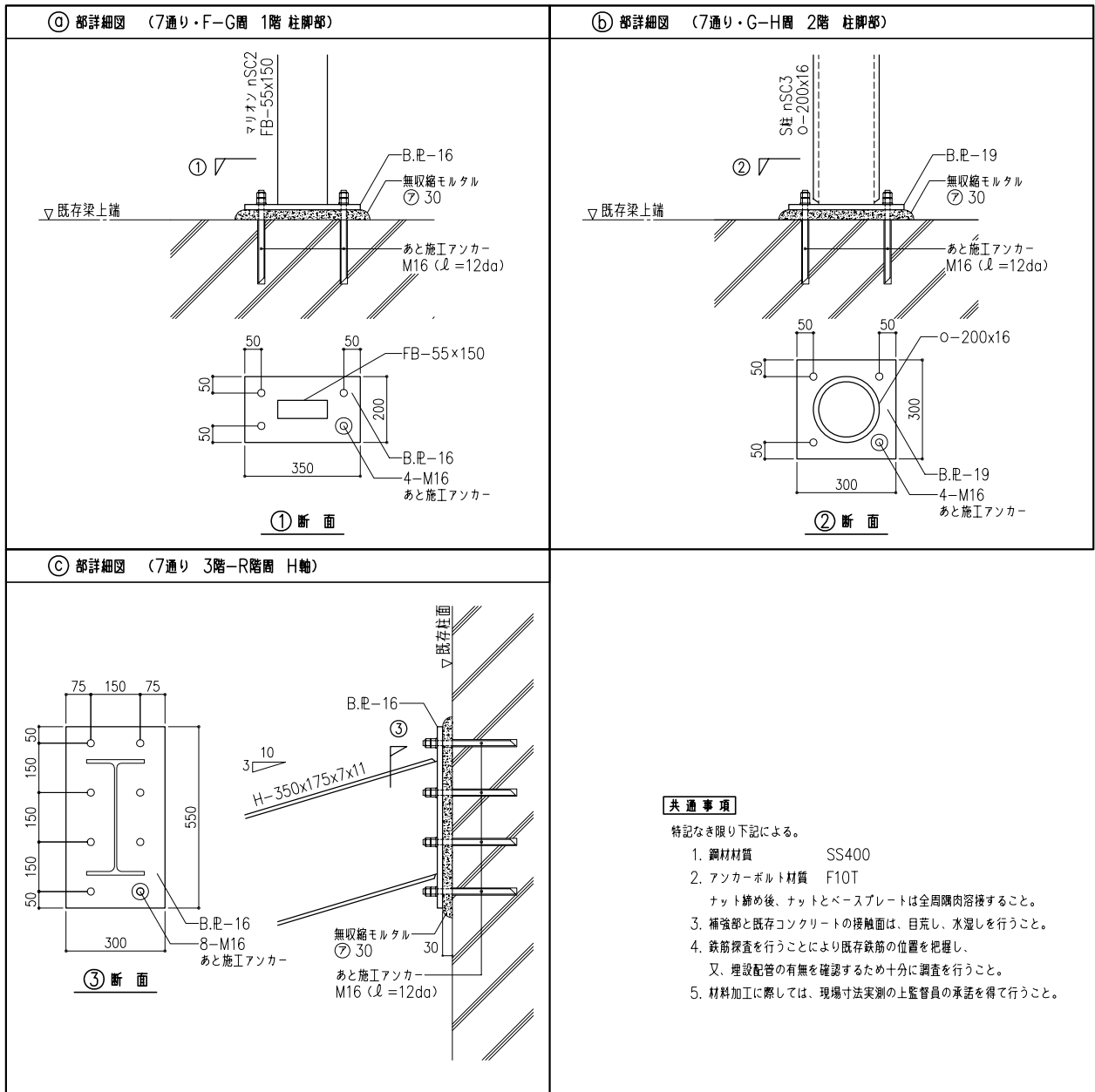
■ 新設梁・新設小梁					
符号	nB1	nB3	nG1	nG2	
B×D	200×550	300×800	500×900	500×600	
上端筋	2-D22	5-D22	7-D25	5-D25	
下端筋	2-D22	5-D22	7-D25	5-D25	
STP	2-D10@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	
腹筋	—	4-D13	4-D10	—	
あと施工アンカー(接着系)	4-D22	10-D22	10-D25	10-D25	
既存躯体接合部の主筋					
アンカー埋込深さ	13da以上	13da以上	13da以上	13da以上	
アンカー有効定着長さ	40da以上	40da以上	40da以上	40da以上	
備考	nB1はジョイストス ラブ小梁、既存ジョ イスト小梁小口接 合部は既存スラブ 鉄筋をハツリ出し 10d(片面)フレア 溶接				

■ 新設杭基礎フーチング	
符号	nF1
B×D	2000×2000
版厚	1000
はかま筋	D13@300
ベース筋	D16@150

■ 新設柱					
符号	nC1	nC2	nSC1	nSC2	nSC3
B×D	600×600	850×1,000	○-400x16	FB-55x150	○-200x16
主筋	12-D25	20-D25	—	—	—
HOOP	2-2-D13@100	2-2-D13@100	—	—	—
あと施工アンカー(接着系)	12-D25	20-D25	6-D25	図示	図示
アンカー埋込深さ	13da以上	13da以上	13da以上		
アンカー有効定着長さ	40da以上	40da以上	40da以上		
備考	RC柱	RC柱	SS400 S柱	SS400 S柱	SS400 S柱

■ 新設布基礎	
符号	nFG3
基礎梁 B1×D	250×500
布幅 B2	500
布基礎厚さ t	200

■ 新設鉄骨小梁	
符号	nSB1
B×D	H-390x300x10x16
備考	SS400 S小梁



共通事項

特記なき限り下記による。

- 鋼材材質 SS400
- アンカーボルト材質 F10T
ナット締め後、ナットとベースプレートは全周隅肉溶接すること。
- 補強部と既存コンクリートの接触面は、目荒し、水濡しを行うこと。
- 鉄筋探査を行うことにより既存鉄筋の位置を把握し、
又、埋設配管の有無を確認するため十分に調査を行うこと。
- 材料加工に際しては、現場寸法実測の上監督員の承諾を得て行うこと。